

---

## ごあいさつ

---

東京大学東洋文化研究所は、人文学や社会科学の方法を用いて、アジアの過去・現在・未来を総合的に研究し理解しようとする研究者のための世界的な拠点です。所員が研究に用いる学問の方法は、文学、歴史学、考古学、思想研究、美術史研究、人類学、法学、政治学、経済学、社会学など多種多様です。これらを縦横に使いこなし、しばしば複数のアプローチを融合させた独創的な方法によって、アジアの国々や諸地域について信頼に足る最新の情報を豊富に発信することが、所員と研究所に課された第一の使命です。この使命を果たすべく、研究所では、所員個人の研究、所内の共同研究、内外の研究者が加わった研究班による研究など、多彩な研究活動が精力的に展開されています。

良質の研究を生み出すためには、古今東西の図書や文献、資料を十分に参照し、吟味することが必要です。東洋文化研究所には、その70年近い歴史の中で収集・蓄積された60万冊を超える蔵書があり、アジア研究に関する有数のコレクションとして、所員だけではなく内外の専門家や学生にも大いに活用されています。これらの貴重な書籍や資料を大切に保存して次世代に引き継ぐとともに、その規模と内容の拡充を図ることも、本研究所の大事な使命です。

東京大学の中で研究所が果たすべき最も重要な責務が「研究」であることは確かです。しかし、所員は研究だけを行っているわけではありません。ほとんどの教授と准教授が、各自の関係する大学院で授業を担当し、大学院生の指導にあたっています。また、日本学術振興会の特別研究員、諸外国のポストドクや博士課程学生など多くの若手研究者を受け入れ、優秀なアジア研究の専門家の育成に努めています。「教育」もまた、東洋文化研究所を語る際に無視できないポイントであることを強調しておきたいと思えます。

現代世界は、スピーディーに、またダイナミックに変貌しています。私たちの主たる研究対象であるアジアも例外ではありません。私がこの研究所に赴任した二十年前と比べても、日本、アジア、世界の状況は驚くほど大きく変化しました。従来の方では解明しきれない事態、既存の方法では解決できない問題が次々と現出しています。

東洋文化研究所は、このような状況と正面から向かい合い、先輩たちが築き上げてきた誇るべき伝統を尊重しながらも、研究の体制や方法を時代の要求に合わせて不断かつ柔軟に見直し、人々が必要とする日本、アジア、世界に関する情報を、瑞々しい研究成果として積極的に社会に発信して行く所存です。どうかご期待下さい。

所 長 羽 田 正

東京大学  
東洋文化研究所



所長挨拶

所長  
羽田  
正

## 研究部門

本研究所は 1941 年 11 月 26 日、東洋文化の総合的研究を目的として、東京（帝国）大学に設置創設されました。哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門という部門体制で、附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いて発足しました。1949 年、新たに 3 部門が増設されたのを機会に研究組織を細分化し、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の 6 部門に再編成しました。同時に、本拠を文京区大塚町、外務省所管の旧東方文化学院の一部に移し、これまでの附属図書館内研究室を分室として、研究の充実・発展をはかりました。

ついで 1951 年、人文地理学部門と文化人類学部門が加えられました。これを契機として、従来の専門体系のみによる部門構成を、汎アジア経済部門、汎アジア人文地理学部門、汎アジア文化人類学部門、東アジア政治・法律部門、東アジア歴史部門、東アジア美術史・考古学部門、東アジア哲学・宗教部門、東アジア文学部門という地域区分を加えた 8 部門に再編成しました。地域部門の充実をはかる将来計画にもとづいて、1960 年には南アジア政治・経済部門、1964 年には東北アジア部門、1968 年には西アジア歴史・文化部門、1973 年には東南アジア経済・社会部門、1978 年には西アジア政治・経済部門が増設されて、13 部門を擁するにいたりました。

さらに、アジア地域全体が世界のなかでしめる重要性が大きくなったことを受けて、本研究所がわが国のアジア研究の中核的、指導的役割を果たすために、研究内容の充実、規模の拡大を含む組織上の再編成を行うことが必要となりました。そこで、1981 年に新しい構想にもとづく大部門制を採用し、それまでの 13 部門を、汎アジア部門、東アジア部門、南アジア部門、西アジア部門の 4 部門に統合して再出発し、今日にいたっています。

1999 年度に、東洋学文献センターを廃止して、比較文献資料学と造形資料学という 2 つの分野からなる東洋学研究情報センターが新設されました。1966 年の設立以来東洋学文献センターが実施してきた文献資料に関するドキュメンテーション業務は、アジア全域の文献を対象とする比較文献資料学分野に引き継がれています。また、センターの新設に伴い、絵画・考古資料を対象とする造形資料学分野が設けられ、さらに 2009 年度からアジアの社会調査資料を対象とするアジア社会・情報分野が増設されました。2009 年 6 月には、本センターが文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、2010 年度からは全国の関連研究者コミュニティに対してより開かれたセンターとしての活動を開始します。

## 附属 東洋学研究 情報センター

## 建 物

創立以来 23 年にわたって、本研究所は附属図書館内研究室や外務省所管の建物に仮住いの状態のままでしたが、1967 年に、本郷構内に総合研究資料館（現総合研究博物館）との合同庁舎が完成し、5 階以上を本研究所が使用することになりました。

しかしその後、研究組織の拡充、研究活動の多様化、図書・資料の増加などにもとない、狭隘な施設の改善、とくに書庫の緊急な増設等の強い要望があり、1983 年にいって総合研究資料館（現総合研究博物館）との交換分合により、本研究所が合同庁舎を全館使用することになりました。これにもとなって全面的に改修工事を行い、1984 年 3 月に工事が完成しました。本研究所の建物は総面積 6,577 平方メートル、地下 1 階より地上 8 階までの 9 層からなります。

2006 年 2 月に研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明し、同年 7 月以降、研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施、2007 年 8 月から耐震補強・改修工事を開始し、2008 年 3 月に工事は完了しました。

# 歴代受賞者

# 歴代所長

文化勲章・文化功労者・学士院賞を受賞した本研究所の教員は次の通りです。

## 文化勲章

江上 波夫	1991年
中根 千枝	2001年

## 文化功労者

辻 直四郎 (併)	1978年
江上 波夫	1983年
山本 達郎 (併)	1986年
川野 重任	1993年
中根 千枝	1993年
板垣 雄三	2003年
斯波 義信	2006年

## 学士院賞

仁井田 陞	1934年
宇野 圓空	1942年
山本 達郎 (併)	1952年
周藤 吉之	1956年
福島 正夫	1963年
鎌田 茂雄	1976年
荒 松雄	1978年
池田 温	1983年
鈴木 敬	1985年
田中 一成	1993年

桑田 芳蔵	1941. 11. 26—43. 3. 31
宇野 圓空	1943. 4. 1—46. 10. 5
戸田 貞三	1946. 10. 6—47. 9. 30
辻 直四郎	1947. 10. 1—54. 3. 31
仁井田 陞	1954. 4. 1—58. 7. 10
飯塚 浩二	1958. 7. 11—60. 7. 9
結城 令聞	1960. 7. 10—62. 7. 9
江上 波夫	1962. 7. 10—64. 7. 9
飯塚 浩二	1964. 7. 10—65. 2. 28
小口 偉一	1965. 3. 1—66. 3. 31
川野 重任	1966. 4. 1—68. 3. 31
小口 偉一	1968. 4. 1—70. 3. 31
泉 靖一	1970. 4. 1—70. 11. 15
川野 重任 (事務取扱)	1970. 11. 16—70. 12. 17
鈴木 敬	1970. 12. 18—72. 3. 31
荒 松雄	1972. 4. 1—73. 3. 31
窪 徳忠	1973. 4. 1—74. 3. 31
佐伯 有一	1974. 4. 1—76. 3. 31
大野 盛雄	1976. 4. 1—78. 3. 31
深井 晋司	1978. 4. 1—80. 3. 31
中根 千枝	1980. 4. 1—82. 3. 31
大野 盛雄	1982. 4. 1—84. 3. 31
尾上 兼英	1984. 4. 1—86. 3. 31
山崎 利男	1986. 4. 1—88. 3. 31
斯波 義信	1988. 4. 1—90. 3. 31
池田 温	1990. 4. 1—92. 3. 31
松谷 敏雄	1992. 4. 1—94. 3. 31
後藤 明	1994. 4. 1—96. 3. 31
濱下 武志	1996. 4. 1—98. 3. 31
原 洋之介	1998. 4. 1—2002. 3. 31
田中 明彦	2002. 4. 1—2006. 3. 31
関本 照夫	2006. 4. 1—2009. 3. 31
羽田 正	2009. 4. 1—現在

# 研究活動一覽

東洋文化研究所では、各所員が独自の研究を進めるとともに、所内での共同研究や所外の研究者との研究協力を積極的に行い、次のようなさまざまな形態の研究活動を推進しています。

## A 「21世紀アジアの研究」プログラム

これまでに培われてきた研究の成果を新たに組み替え、活性化すべく、所内研究者が既存の研究体制の枠を越えた4つのグループに分かれ、21世紀アジアについての研究プロジェクトを鋭意進めています。現行のプログラムは、2006年度に発足したものです（右ページ参照）。

## B 部門研究

所内の汎アジア、東アジア（第一）、東アジア（第二）、南アジア、西アジアの各研究部門と附属東洋学情報センターでは、それぞれの課題を掲げ、地域的・学際的な研究を共同して行っています。

## C 個人研究

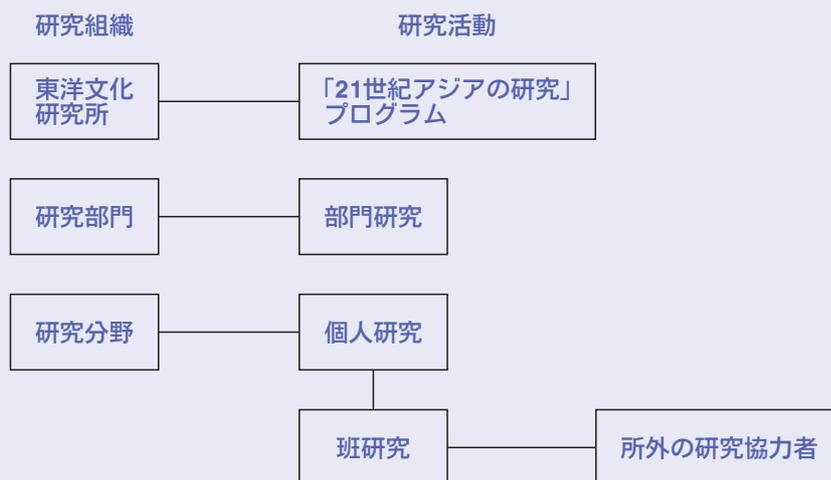
所員は個々の専門地域・分野において最先端の研究を行っており、その業績は国際的にも高く評価されています。

## D 班研究

各専門分野の研究を推進し所外の研究者との交流を深めるため、所員を主任とする班研究会が特定のテーマごとに数多く設置されています。

## E 外部資金による研究

所員は文部科学省科学研究費補助金やさまざまな外部の研究助成・奨学金に積極的に出願しており、多くが採択されて重要な成果を上げています。



## 先端地域研究 プログラム

### 「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」

かつて植民地支配下にあったアジアの多くの国々では、一次産品の生産と輸出に依存する経済と社会が形成されました。第二次大戦後の独立・脱植民地化とそれに続く工業化の波の中で、これら伝統的輸出産業がどう変容・再編成されてきたか、事例研究により検証します。

責任者 池本 幸生

メンバー 加納 啓良 佐藤 仁 高橋 昭雄 安富 歩

## 新分野開拓研 究プログラム

### 「アジアにおける幸福論・幸福観の総合的研究——過去と現在——」

幸福という問題は身近でありながら、学問の世界では敬遠されています。アジアのさまざまな地域で幸福がどんな風に論じられ感じられてきたのか、そして現在から未来に向けどんな風に語ることができるのか。このことをさまざまな専門分野の協力で研究します。

責任者 丘山 新

メンバー 永ノ尾信悟 鎌田 繁 園田 茂人 田中 明彦 名和 克郎  
馬場 紀寿 古井 龍介 松田 康博 森本 一夫

## 超域連携研究 プログラム

### 「アジアの「美」の構築」

美術、文学、音楽に表象される「美」とは、社会的、政治的、経済的に、いかようにも構築されるものです。本プログラムでは、「美」の具体的な構築の道筋、技法、仕掛け、思惑というものを、アジア諸国を例に比較検討することを目標としています。

責任者 板倉 聖哲 菅 豊 榎屋 友子

メンバー 小川 裕充 高見澤 磨 松井 健

## 資料情報研究 プログラム

### 「アジア書籍の電子図書館化とその多角的活用法の研究」

当研究所は、豊富なアジア学の図書・文書・画像資料を保有しています。保存に留意しつつ効果的に閲覧サービスを提供するという責務を果たすために、現在精力的に電子化の作業を進めていますが、それを電子図書館として提供し、多角的に活用するための方法を探求します。

責任者 尾崎 文昭 平勢 隆郎

メンバー 大木 康 小寺 敦 鈴木 董 辻 明日香 廣田 輝直  
松田 訓典

汎アジア部門

「アジア諸地域における社会・文化の変容過程」

汎アジア部門は、アジアを広く対象とし、経済学・政治学・人文地理学・文化人類学・比較思想といった社会科学・人文科学の諸分野における研究を深めるだけでなく、最先端の学際的な研究をも展開しています。同時にこの部門ではアジアのアジア研究者とのネットワーキングにも力を注ぎ、アジア研究の地域的ハブとしての機能を担おうとしています。日本も重要な研究対象としています。

経済・統計分野 教授 池本 幸生 准教授 佐藤 仁

国際政治分野 教授 田中 明彦 (兼任) 准教授 松田 康博

特任助教 安田 佳代 (10年4月から)

人文地理学分野 教授 松井 健 教授 菅 豊

文化人類学分野 准教授 名和 克郎 特任准教授 古澤 拓郎 (10年4月から) (兼任)

東アジア部門  
(第一)

「東アジアにおける国家権力と社会経済構造」

東アジア第一部門は、中国、朝鮮、日本、ときにはベトナムを含む東アジア世界を総体として取り上げ、社会科学的方法によって過去から現在に至る動態を把握することを目標とします。この研究では、とくに東アジア第二部門と協力して、学際的な地域研究による生きた全体像を目指すことは言うまでもありません。

経済・社会, 政治過程分野 教授 高見澤 磨 教授 安富 歩

歴史分野 教授 黒田 明伸 教授 真鍋 祐子

考古分野 教授 平勢 隆郎 准教授 小寺 敦

東アジア部門  
(第二)

「東アジアにおける庶民文化の形成と展開」

東アジア第二部門は、中国を中心とする東アジア地域の思想、宗教、文学、美術を研究対象とする部門です。「庶民文化の形成と展開」を課題とした部門研究においては、各研究分野で独自の検討をするとともに、共同してその解明を目指しています。

宗教, 思想分野 教授 丘山 新 (兼任)

文学分野 教授 尾崎 文昭 教授 大木 康

美術分野 教授 小川 裕充 准教授 板倉 聖哲

## 南アジア部門

## 「環ベンガル湾地域における文明・文化の交錯」

南アジア部門は、インド亜大陸を中心とする狭義の南アジア地域とともに東南アジア地域をも研究の対象にしています。この地域は多様な言語と文化をもつ人びとが複雑な社会を形成しているうえ、大部分の国々が欧米の植民地支配を経験し第二次大戦後に独立を勝ち取ったという歴史的経験をもっており、こうした事情の理解なしには現状の把握も不可能です。このため、本部門は政治・経済・社会・文化などの広範な分野にわたってこの地域の過去と現在を探求することを共通の課題としています。

経済・社会、政治過程分野 教授 加納 啓良 教授 高橋 昭雄

歴史・考古分野 准教授 古井 龍介

宗教・文化分野 教授 永ノ尾信悟 准教授 馬場 紀寿 (10年4月から)

## 西アジア部門

## 「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」

西アジア部門は、アフガニスタンからトルコ・エジプトまでの地域、いわゆる中東を研究対象とし、あわせて内陸アジアをも対象のなかに包含します。この広大な地域の政治、経済、文化、社会を、学際的研究によって総合的に理解し、その特質を解明することが本部門の目的です。そのために各自が独自の立場から個人研究を行うとともに、「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」を共通の研究題目とする共同研究が実施されています。

経済・社会、政治過程分野 教授 鈴木 董 教授 長澤 榮治

歴史・考古分野 教授 羽田 正 教授 榎屋 友子 助教 辻 明日香

宗教・文化分野 教授 鎌田 繁 准教授 森本 一夫

## 東洋学研究情報センター

## 「アジア資料学の構築」

(東洋学研究情報センターの項、18ページをご参照ください。)

## C 所員の研究テーマ (2010年度)

### 汎アジア部門

いけちと ゆきお  
池本 幸生

アジアにおける貧困と不平等

すが ゆたか  
菅 豊

東アジアの自然と文化

なわ かつお  
名和 克郎

ネパールおよび南アジアの集団間関係

まつい たけし  
松井 健

文化としての自然

やすだ かよ  
安田 佳代

東アジアにおける国際衛生行政

きとう じん  
佐藤 仁

資源ガバナンス・開発研究

たなか あきひこ  
田中 明彦 (兼任)

東アジアをめぐる主要国間の国際政治

ふるさわ たくろう  
古澤 拓郎 (兼任)

アジア太平洋の人々の健康と生態

まつだ やすひろ  
松田 康博

中国と台湾の政治・外交研究, 中台関係論

### 東アジア部門 (第一)

くろだ あきのぶ  
黒田 明伸

東アジア経済史

たかみざわ おさむ  
高見澤 磨

現代中国の法と社会

まなべ ゆうこ  
真鍋 祐子

朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム

こてら あつし  
小寺 敦

中国古代家族史

ひらせ たかお  
平勢 隆郎

中国古代領域国家の形成

やすとみ あゆむ  
安富 歩

魂の脱植民地化

### 東アジア部門 (第二)

いたくら まさあき  
板倉 聖哲

宋元文人の絵画表象

おかやま はじめ  
丘山 新 (兼任)

中国における仏教経典の受容

おさき ふみあき  
尾崎 文昭

魯迅・周作人の文学と思想

おおき やすし  
大木 康

中国明清時代の文学

おかわ ひろみつ  
小川 裕充

東アジア美術史

### 南アジア部門

えいのお しんご  
永ノ尾 信悟

古代インド社会と祭式

たかはし あきお  
高橋 昭雄

東南アジアの農村社会

ふるい りょうすけ  
古井 龍介

南アジア古代・中世初期史

かのう ひろよし  
加納 啓良

東南アジアの現代経済史

ばば のりひさ  
馬場 紀寿

上座部仏教の思想と歴史

## 西アジア部門

かまだ しげる  
鎌田 繁

イスラーム宗教思想の構造と展開

すずき ただし  
鈴木 董

オスマン帝国の政治社会史的研究

つじ あすか  
辻 明日香

イスラーム政権下におけるマイノリティー

ながさわ えいじ  
長澤 榮治

近代アラブ社会経済史

はねだ まさし  
羽田 正

世界史の再構築

ますや ともこ  
榎屋 友子

イスラーム地域における美術と社会

もりもと かずお  
森本 一夫

ムスリム諸社会の社会史的研究

## 東洋学研究情報センター

いたくら まさあき  
板倉 聖哲 (兼任)

東アジア造形資料の研究

おかやま はじめ  
丘山 新

東アジア文献資料の研究

スミス ロジャー・デール (兼任)

海洋法・国際関係

そのだ しげと  
園田 茂人 (兼任)

アジア地域を対象にした比較社会的研究

なわ かつお  
名和 克郎 (兼任)

ヒマラヤ地域の文献・口承

ひろた てるなお  
廣田 輝直

東洋文化研究情報 DB

ますや ともこ  
榎屋 友子 (兼任)

西アジア造形資料の研究

まつだ くにのり  
松田 訓典

インド大乘仏教思想研究

まつだ やすひろ  
松田 康博 (兼任)

中国と台湾の政治・外交研究, 中台関係論

## 国際学術交流室

チャード ロバート ローレンス

中国学・東アジア文化史

南アジア北部における人類学的研究の再検討

主任：名和克郎

- ※上杉妙子 ※小牧幸代 ※佐藤齊華 ※田辺明生
- ※外川昌彦 ※藤倉達郎 ※マハラジャン, ケシヤブ・ラル
- ※三尾稔 ※南真木人 ※森本泉 ※安野早己

東アジア・東南アジアをめぐる主要国間の国際政治

主任：田中明彦

- 山影進 ※浅野亮 ○古田元夫 ※伊豆見元 ※瀬島誠
- 谷垣真理子 ※今村弘子 ○原田至郎 ○保城広至
- ※玄大松 ※山本和也

中国出土文字史料とその歴史的背景

主任：平勢隆郎

- ※竹内康浩 ※呂静 ※原宗子 ※影山輝国 ※鶴間和幸
- ※工藤元男 ※谷豊信 ※飯尾秀幸 ※吉開将人 ※熊谷滋三
- ※近藤浩之 ※甘懐真 ※池田知正 ※徐蘇斌

漢籍版本と分類の研究

主任：丘山新

- 高見澤磨 黒田明伸 平勢隆郎 ※橋本秀美 尾崎文昭
- 小川裕充 板倉聖哲 大木康 ○川原秀城 ○小島毅
- 大西克也 ○村田雄二郎 ○黒住真 ※陳捷 ※梶浦晋
- ※黄仕忠 ※覃影

中国禅宗語録の研究

主任：丘山新

- ※橋本秀美 ※小川隆 ※衣川賢次 ※石井修道
- ※末木文美士 ※前川亨 ※喬志航 ※土屋太祐 ※倉本尚徳
- ※泉経武

世紀交替期中国における文化転形

主任：尾崎文昭

- 大木康 丘山新 高見澤磨 ○大西克也 ※坂元ひろ子
- ※白水紀子 ※砂山幸雄 ○戸倉英美 ○村田雄二郎
- ※茂木敏夫 ○吉澤誠一郎

中国一九三〇年代の文学

主任：尾崎文昭

- 伊藤徳也 ○刈間文俊 ○代田智明 ○藤井省三
- ※松岡俊裕 ※山内文登

中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法研究の総合的試み

主任：高見澤磨

- 松原健太郎 ※赤城美恵子 ※鹿嶋瑛 ※加藤雄三
- ※川村康 ※陶安あんど ※石岡浩 ※鈴木秀光 ※高遠拓児
- ※中村正人 ※西英昭 ※李英美

現存する中国絵画の包括的再検討

主任：小川裕充

- 板倉聖哲 ※嶋田英誠 ※湊信幸 ※宮崎法子 ※藤田伸也
- ※救仁郷秀明 ※井手誠之輔 ※西上実 ※伊藤大輔
- ※増記隆介 ※竹浪遠

アジア美術とアイデンティティー

主任：小川裕充

- 板倉聖哲 ※西上実 ※井手誠之輔 ※朴亨國 ※後小路雅弘
- ※浅井和春 ○大田省一 ※秋山光文 羽田正 榊屋友子
- ※田中秀隆

ブラフマニズムと仏教の関係

主任：永ノ尾信悟

- ※青木健 ※一色大悟 ※片岡啓 ※近藤隼人 ○齊藤明
- ※榊和良 ※佐藤直美 ※申才恩 ※杉木恒彦 ※鈴木健太
- ※鈴木隆泰 ※高島淳 ※田中公明 ※種村隆元 ※永崎研宣
- 馬場紀寿 ※引田弘道 ※堀内俊郎 ※森雅秀 ※八尾史
- ※横地優子

東南アジア近現代史像の再検討

主任：加納啓良

- ※浅見靖仁 ※土佐弘之 ○中西徹 ○藤原帰一 ※宮脇聡史
- ※高地薫 ○古田元夫 ※白石昌也 ※伊藤正子 ※岩月純一
- ※小泉順子 ○末廣昭 ※藪下ネーナパー ※水野明日香
- 高橋昭雄

ミャンマー近現代史における「国」と「民」

主任：高橋昭雄

- ※根本敬 ※工藤年博 ※谷祐可子 ※池田一人

アジア都市比較の課題と方法

主任：鈴木董

- ※陣内秀信 松井健 ※妹尾達彦 大木康 ※清水展 羽田正
- ※坂本勉 ※林佳世子 ○大田省一 ※黒木英充 ○本村凌二
- ※小泉龍人

比較イスラム制度史の研究

主任：鈴木董

- ※三浦徹 ※私市正年 ※林佳世子 羽田正

都市社会と宗教施設

主任：羽田正

- 藤井恵介 ※私市正年 ○小松久男 ※林佳世子 ※三浦徹
- ※深見奈緒子 ※山中由里子 森本一夫 榊屋友子
- 大田省一

中東の社会変容と思想運動

主任：長澤榮治

- ※池田美佐子 ※鈴木恵美 ※臼杵陽 ※岡野内正 ※加藤博
- ※栗田禎子 ※福田安志 ※松本弘 ※堀井聡江

イスラム史料の総合的研究

主任：鈴木董

- ※坂本勉 ※八尾師誠 羽田正 ※林佳世子 ※黒木英充
- ※堀井優 ※加藤博 ※私市正年 ※三沢伸生 ※秋葉淳

## イスラーム思想の文献学的研究

主任：鎌田繁

※小林春夫 ○杉田英明 ○竹下政孝 ※東長靖 ※中田考  
※野元晋 ※藤井守男 ※菊地達也 ※吉田京子 ○高橋英海  
※仁子寿晴

## 西アジア文献資料学の課題と方法

主任：鈴木董

長澤榮治 羽田正 鎌田繁 永ノ尾信悟

## 仏教美術に関する資料収集と比較研究

主任：板倉聖哲

※内藤榮 ※伊東哲夫 ※稲本泰生 ※榎本渉 ※高橋範子  
※高橋照彦 丘山新 ※井手誠之輔 ※安田治樹

## アジア・アフリカの貧困と不平等の再検討

主任：池本幸生

※松井範惇 ※後藤玲子 馬場紀寿 ※野上裕生 佐藤仁  
※片岡洋子 ※田口さつき ※坪井ひろみ ※吉野馨子  
※峯陽一

## 東アジアにおける「民俗学」の方法的課題

主任：菅豊

※中村淳 ※南根祐 ※中野泰 ○岩本通弥 ※周星  
※田村和彦 ※門田岳久 ※陳志勤 ※小長谷英代  
※平山美雪

## 特産品とその消費の変容から見た現代アジア経済史

主任：加納啓良

※三本木一夫 ※久米高史 ※大澤篤 ※小座野八光  
池本幸生 ※山本博史 ※宮田敏之 高橋昭雄 ※水野明日香

## サブシステム研究の可能性

主任：松井健

永ノ尾信悟 菅豊 ※飯田卓 ※太田至 ※大村敬一  
※大山修一 ※落合雪野 ※河合香史 ※栗本英世  
※窪田幸子 ※小長谷有紀 ※末原達郎 ※杉島敬志  
※杉藤重信 ※須藤健一 ※曾我亨 ※高倉浩樹 ※野林厚志  
※松田素二 ※家中茂

## ペルシア語文化圏研究

主任：森本一夫

※近藤信彰 ※菅原睦 ※真下裕之 ※前田弘毅 ※山口昭彦  
※山岸智子

## アジアの食文化と開発と地域

主任：池本幸生

羽田正 ○梅崎昌裕 ※玄大松 菅豊 ※阿部健一  
○渡辺知保 松井健 名和克郎 ※辻村英之

## イスラーム美術の諸相

主任：栞屋友子

※深見奈緒子 ※真道洋子 ※小林一枝 ※阿部克彦  
※山下王世 ※鎌田由美子

## 共生と創発の歴史的ダイナミクス

主任：安富歩

※深尾葉子 ※本條晴一郎 ※佐藤哲 ※等々力政彦  
※與那覇潤 ※富田啓一 ※井上正夫 ※李昌平 ※翟学偉

## 比較歴史学の課題と方法

主任：羽田正

※伊藤幸司 ※藤田明良 ○村井章介 ※森平雅彦 ※高津孝  
※中島楽章 ※四日市康博 ○深沢克己

## オスマン帝国史の諸問題

主任：鈴木董

※高松洋一 ※小笠原弘幸 ※堀井優 ※澤井一彰  
※松尾有里子 ※齋藤久美子 ※清水保尚 ※黛秋津  
※秋葉淳 ※長谷部圭彦

## 中国古代文献の成立に関する多角的な研究

主任：小寺敦

○池澤優 ○大西克也 ※名和敏光 ※宮本徹 ※谷中信一

## 中台関係の総合的研究

主任：松田康博

○若林正文 ○高原明生 ※家永真幸 ※石川誠人 ※伊藤剛  
※伊藤信悟 ※小笠原欣幸 ※佐藤幸人 ※福田円  
※松本充豊 ※林成蔚

## アジアにおける多言語状況と言語政策史の比較研究

主任：名和克郎

○岩月純一 ※大川謙作 ○吉川雅之 ○渡邊日日

## 個別課題

1. 伝統中国の都市の構造とその展開  
※熊遠報 (2006. 2. 24~2011. 1. 31)

## E 外部資金による研究 (2009年度)

### 文部科学省・日本学術振興会科学研究費による 研究調査

#### 黒田明伸

「中近世東アジア貨幣史の特殊性・共時性とその貨幣論的含意」  
特定領域研究 2005～2009

#### 羽田 正

「海域比較研究——インド洋海域世界と地中海海域世界における地域間交流の諸相——」  
特定領域研究 2005～2009

#### 園田茂人

「台頭する中産階級とその政治的・社会的インパクト：中印露比較研究」  
新学術領域研究 2009～2011

#### 佐藤 仁

「日本の被援助・開発経験の相互作用的研究——1950年代を中心に」  
新学術領域研究 2009～2011

#### 小川裕充

「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究——全アジアから全世界へ」  
基盤研究(S) 2007～2011

#### 羽田 正

「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」  
基盤研究(S) 2009～2013

#### 田中明彦

「東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程」  
基盤研究(A) 2009～2011

#### 安富 歩

「『共同体』概念に依拠しない秩序形成の理論歴史学～魂の脱植民地化の新しい展開～」  
基盤研究(A) 2009～2011

#### 高橋昭雄

「契約文書からみた英領植民期ビルマ（ミャンマー）農村経済の研究」  
基盤研究(B) 2007～2010

#### 羽田 正

「18-19世紀ユーラシアの港町の比較研究——人・モノ・情報の受容と拒絶」  
基盤研究(A) 2009～2009

#### 長澤榮治

「IT時代における現代アラビア語の言語社会学的研究」  
基盤研究(B) 2009～2011

#### 松井 健

「工芸の生産・流通・消費とグローバリゼーション——新しい「工芸の人類学」の構想」  
基盤研究(B) 2009～2012

#### 中里成章

「インド・パキスタン分離独立の農村的起源——ベンガルの場合——」  
基盤研究(B) (海外) 2009～2011

#### 園田茂人

「中国と向き合って：日韓台対中進出企業の現地化プロセスに関する比較社会学的研究」  
基盤研究(B) 2009～2012

#### 名和克郎

「体制転換期ネパールにおける政治言語の流通と変容に関する言語人類学的研究」  
基盤研究(C) 2009～2011

#### 菅 豊

「日本の伝統文化の創造と全球的拡散に関する動態的研究」  
萌芽研究 2008～2009

#### 小寺 敦

「『周代宗法制』の成立に関する研究」  
若手研究(B) 2007～2010

#### 古井龍介

「中世初期南アジア農村における権力と支配」  
若手研究(スタートアップ) 2008～2009

#### 田中明彦

「日本政治・国際関係データベース」  
研究成果公開促進費 2008・2009

## その他の研究助成・奨学金

### 園田茂人

旭硝子財団・ステップアップ助成 2009～2011

### 松田訓典

三菱財団人文科学研究助成金 2009

## 二国間交流事業

### 森本一夫

イランと周辺諸国におけるテュルク・モンゴル系支配者、都市と都市生活 2009

## 国際研究集会

### 森本一夫

ムスリム諸社会におけるサイド/シャリーフの役割と立場に関する国際研究集会 2009

### 辻明日香

財団法人 JFE 21 世紀財団アジア歴史研究助成金  
2009

### 羽田 正

広州・長崎比較会議 2009



- 松本忠雄氏旧蔵書：日中関係など 3,000 冊
- 雙紅堂文庫：長澤規矩也氏旧蔵書 明清戯曲小説類漢籍 3,150 冊
- 清野文庫：清野謙次氏旧蔵書 人類学・考古学関係洋書 750 冊
- 矢吹慶輝氏旧蔵書：マニ教文献，仏教遺跡など洋書 305 点
- 下中文庫：下中弥三郎氏寄贈 第二次大戦後出版された中国書 4,500 冊，洋書 130 冊，中国雑誌 10 冊
- 東京銀行調査部旧蔵資料：和漢書・資料類 18,000 点
- 仁井田文庫：仁井田陞氏旧蔵書 漢籍・中国書 5,000 冊，和書 2,200 冊，洋書 120 冊，清代公・私文書類 900 余点，碑文拓本 50 基
- 我妻文庫：我妻栄氏旧蔵書 アジア法制関係文献資料 647 部 932 冊
- 倉石文庫：倉石武四郎氏旧蔵書 漢籍 4,433 点，中国書 2,300 点，和書 3,300 点，その他 676 点
- 江上文庫：江上波夫氏旧蔵書 歴史学・民族学・考古学関係 洋書 2,550 点
- Daiber Collection I, II：Hans Daiber 氏収集 12～20 世紀初頭にいたるイスラーム宗教・思想・歴史関係 アラビア語写本 490 点
- 文淵閣四庫全書影印本：1,501 冊
- オランダ植民地省公文書（1850～1921）索引およびジャワ官報（1928～1939）：（マイクロフィッシュ）
- 乾隆版大蔵経：清代に刊行された木版大蔵経：1,657 部
- Ouseley Collection：Gore Ouseley 卿旧蔵書 17～19 世紀西欧人のインド・中近東旅行記，ペルシア文学 60 点 106 冊
- Müteferrika Collection：オスマン朝時代の初期刊本 17 点
- 南アジア伝道教団資料集成：18～20 世紀の教団の年報，議事録，報告書など（マイクロフィッシュ）
- Indonesian Monographs 1945～1973：独立後インドネシア社会科学関係（マイクロフィッシュ）
- 今堀文庫：今堀誠二氏旧蔵書 近現代中国社会史・華僑関係資料漢籍 300 点，中国書 2,000 点，和洋書 260 点，文書 500 点
- 東アジア宗族社会史関係資料 朝鮮族譜集成 494 点 中国華南宗族社会史資料，南洋華僑・華人関係資料 2,263 点
- 中国西北文献叢書：中国西北地方の歴史・文学等基本文献
- オスマン語・トルコ語年鑑・定期刊行物コレクション
- 西アジア関連写本集成：ミンガナ・コレクション，ロンドン大学東洋アフリカ研究所など所蔵のアラビア語写本（マイクロフィッシュ）
- 中国第一歴史档案馆清代档案資料：清朝公文書（マイクロフィルム）
- 夕嵐草堂文庫：前野直彬氏旧蔵書 明清小説類 漢籍 500 点 4,400 冊
- 伊藤文庫：伊藤義教氏旧蔵書 古代・中世イラン学関係 和・洋書 849 冊
- 安田文庫旧蔵『論語』コレクション：安田弘氏寄贈 正平版を含む論語 9 点を柱とする漢籍 11 点
- 上村文庫：上村勝彦氏旧蔵書 サンスクリット詩学・宗教・哲学 サンスクリット語 658 点
- タイ語文献コレクション：文献 2,185 点と図書 7 点をあわせた 2,192 点のタイ語文献
- 荒木文庫：荒木茂氏収集波斯関係洋書 938 点 1,112 冊
- 両紅軒文庫：伊藤漱平氏旧蔵書 漢籍・中国書・和書・洋書 2,246 冊
- 滝川勉文庫：滝川勉氏旧蔵書 和書・洋書 2,050 冊
- 山崎文庫：山崎利男氏旧蔵書 和書・洋書 489 冊（2010 年 3 月現在）

## 4 図書の利用 と保存

### (1) 図書の利用状況

開架スペースには研究所刊行物、所員の著作、参考書、新聞を配架し、他の蔵書はすべて書庫に配架しています。閲覧希望の図書資料はカウンターで出納します。蔵書は原則として貸出していません。

2008・2009年度開室日数・閲覧者数は次の通りです。

	2008年度*	2009年度
開室日(日)	105	227
学内閲覧者(人)	1,080	2,260
学外閲覧者(人)	756	1,597

\*建物耐震補強工事のため閲覧業務の制限・中止を余儀なくされ、2007年1月から2008年9月まで閉室しました。

### (2) 貴重図書の保存・複製・閲覧

本研究所の所蔵資料には貴重なものが多く、かつ、それらはアジア研究において不可欠なものです。一方ではこれら図書資料を保存しなければならず、他方では閲覧に供してアジア研究を支えていく責任があります。保存に特に注意を払っている特別貴重書は1,300余点所蔵しています(2010年3月現在)。古い書籍には既に破損していたり、劣化が進んでいるものもあります。

現在、貴重書の保存と利用を両立させるために、マイクロフィルム等光学的複製化、複製本作成、デジタル化など貴重書の複製化を進めています。ただし、この作業には多大の時間と費用とを要します。利用者の広い支援と協力をお願いします。

こうした作業のひとつの成果として2006年度に「アジア古籍電子図書館」をインターネット上に公開し、「漢籍善本全文影像資料庫」、「アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース」をはじめ貴重書全文を遠隔地からも利用していただけるようになりました(20~21ページ参照)。2007・2008年度には「雙紅堂文庫全文影像資料庫」も追加しました。

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

来所された閲覧者には複製本を閲覧していただきますが、特に必要のある専門家には所定の手続きを経て原本を閲覧していただくことができます。

なお本研究所蔵書の目録や影印本の出版は、本研究所事業のほか、内外の研究機関・出版社においても進められています。



「はじめての漢籍」講演会  
(2009年11月11日)

閲覧 一般図書・貴重書

どなたでも閲覧いただけますが、大学等研究機関に所属されていない方は、事前に所蔵図書資料閲覧申請書を出していただきます。

特別貴重書

原則として複製を利用していただきます (複製があるものに限り)。研究・教育上原本の閲覧が特に必要な場合には、特別貴重書閲覧申請書をお出ください。審査のうえ、ご利用いただきます。保存状態などにより原本の閲覧ができない場合があります。

複写・掲載 複写

申請のうえ複写することができます。線装本貴重書・特別貴重書等は写真撮影により複製することができます。ネガフィルムは本研究所で保存します。なお、著作物の二分の一以上の複写は全頁複写扱いとなり、個人には認められません。

出版掲載許可申請・放映許可申請

複写した画像を出版物に掲載したり、ウェブサイト上で公開したりする場合には、あらかじめ出版掲載許可を申請願います。テレビ等で放映する場合も同様です。出版物の場合には1部、テレビ番組等の場合には録画記録媒体1部をご提供願います。なお、ウェブサイト上での公開の場合には、URLの通知および公開した部分の画像のハードコピー1部をご提供願います。



『新選校正評釈申奇選擁爐嬌紅記』(両紅軒文庫)

# 東洋学研究情報センター

## センターの 目的・沿革

東洋学研究情報センターは、旧東洋学文献センター（1966年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設されました。現在のセンターは、旧センターの東アジアを中心とする豊かな活動実績を継承しつつ、対象地域をアジア全域に拡大し、従来からの文献資料学分野、新設された造形資料学分野、さらには2009年度から増設されたアジア社会・情報分野の3分野から「アジア資料学」の確立を目指しています。また、2010年度に共同利用・共同研究拠点の認定を受け、国内外の大学及びその他の研究機関研究者との共同研究を進め、蓄積されてきたアジア諸資料の共同利用を一層推進します。

## 研究活動

アジア研究の比較資料、造形、社会・情報からなる3分野の資料の収集と管理、及びこれらの資料のデータベースの構築と資料学的研究を実施しています。以上に加えて、アジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを2003年度から開始しました。

センター長 羽田 正

### 造形資料学分野

美術作品・建築・考古資料・民俗学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を研究対象としています。

教授 榎屋 友子 (兼任)

准教授 板倉 聖哲 (兼任)

### 比較文献資料学分野

アジア諸言語で書かれた書籍・新聞雑誌・文書・碑文等の文字資料を研究対象としています。

教授 丘山 新

准教授 名和 克郎 (兼任)

准教授 廣田 輝直

### アジア社会・情報分野

アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料を、それぞれ研究対象としています。

教授 園田 茂人 (兼任)

准教授 松田 康博 (兼任)

准教授 スミス ロジャー・デール (兼任)

助教 松田 訓典

# センターの主要な活動

センターは、アジア学関連資料を収集・整理するデータベースプロジェクトに加えて、アジア研究に関する情報を組織化し発信するプロジェクトを進めています。

## アジア研究情報 Gateway

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

日本におけるアジア学の研究情報を総合的に組織化し、発信することを目的としたホームページです。アジア各国の書店・図書館情報・留学情報・研究会開催情報のほか、「Asian Studies Watching」のコーナーには各種の研究エッセイを掲載し、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指しています。



アジア研究情報ゲートウェイホームページ（英文版）



エジプト カイロの書店情報

## アジア・バロメーター

<https://www.asiabarometer.org/ja/index>

アジアの「普通の人々の日常生活」を定点観測するプロジェクト。2003年から2008年にかけてアジア全域で行われた世論調査を整理・蓄積し、これを利用した研究成果を刊行・発表しています。2009年度でようやく統一的なデータベースが完成し、一層の成果刊行が期待されています。

## 漢籍整理長期研修

全国の大学図書館等職員に、漢籍の整理技術を普及する目的で実施しています。10日間にわたる講義と実習は、四部分類・目録法概説から、朝鮮本・和刻本の知識、漢籍補修法に至るまで、幅広い関連知識を習得できるように計画されています。1980年の開始以来、約79機関、220名以上が受講しました。

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業

「アジア比較社会研究フロンティア」

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/aasplatform/main.html>

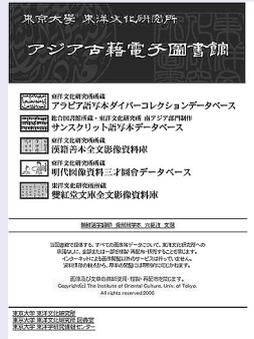
東洋学研究情報センターが2010年度に共同利用・共同研究拠点化するのを契機に、2009年に新設されたアジア社会・情報分野を基盤にして、高麗大学（韓国）や中国社会科学院（中国）、中央研究院（台湾）、シンガポール国立大学（シンガポール）を相手国拠点機関に、従来データベースの欠如ゆえに本格的に展開されることの少なかったアジアを対象にした比較社会学的研究を進めていく3年プロジェクト「アジア比較社会研究のフロンティア」がスタートしました。同プロジェクトは、2010年度日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に採択され、現在進みつつある東アジア域内での社会学研究者の交流を加速させ、アジア社会学の可能性をめぐってさまざまな検討を加えることを目的としています。その具体的な研究成果やイベントなどは、逐次ホームページで紹介されていきます。

# データベースプロジェクト

## アジア古籍電子図書館

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp>

本研究は、文化財としての漢籍善本の保存とともに、多くの研究者の研究に資するため、世界に先駆けて資料をネットワーク上で試験的に公開することを決断しました。国内外の諸研究機関・図書館が、同様の試みを積極的にすすめ、将来的には、仮想空間上に国際的に連携した善本漢籍影像資料庫が構築されることを願っています。(16 ページ参照。)



アジア古籍電子図書館データベース



目録のページ

## インド史跡調査団データベース

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>

1960年代初頭に東京大学インド史跡調査団が行ったデリーを中心としたインドのイスラーム建築の写真、図面、拓本などの資料をデジタル化し、都市別、建物別に公開しています。



インド史跡調査団

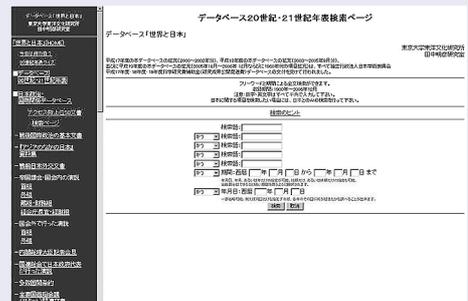
## データベース『世界と日本』

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html>

戦後日本の政治や国際関係についてのデータベースです。重要文献、演説、出来事、略語などを調べることができます。



データベース「世界と日本」



20世紀・21世紀年表検索ページ

ダイバーコレクションデータベース

[http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db\\_index.html](http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html)

イスラーム史料写本を電子化した全内容をオリジナルカタログと併せて利用できます。

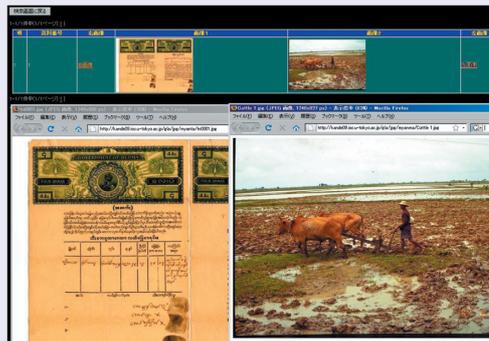


ダイバーコレクションデータベース

植民地期ビルマの土地関係資料データベース

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hasbi/index.html>

英領ビルマで作成された契約文書（7,000 枚以上）の一部の電子画像を現在の農村風景と連動させて公開しています。



植民地期ビルマの土地関係資料データベース

その他のプロジェクト

- 漢籍知識庫の構築と国際共同運用への試み
- アラビア文字圏ポリグロット・グロッサリー・プロジェクト
- 台湾現代史貴重史料の収集・整理
- 古典一次資料上における知識 DB 構築支援の試み
- アジア美術画像アーカイブ（第2期）
- 東アジア絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト
- 東文研蔵貴重物品の整理とデジタル化
- 日本とアジアを繋ぐ：アジア駐在経験をもつ日本人ビジネスマンのライフヒストリー
- 社会生態史学のためのデータベース構築
- イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイブ
- Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト（eDic）
- 江戸・明・古代プロジェクト

# 所蔵資料



仏三尊像（六朝造像埴）

中国 6～7 世紀。仏龕を 4 つ並べ、それぞれに仏三尊を表現する。



刀銭

主として河北の燕国や山東の齊国で用いられた。



銀錠

中国後漢建和二年（148 年）の銘をもつ。  
重さは、174 g。インゴットと見られ、当時の百両の 1/8 に相当する。

# アジアのフィールド調査



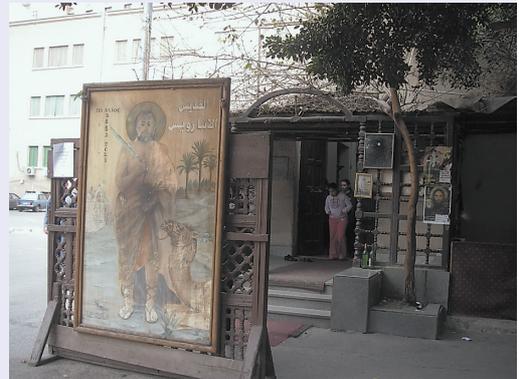
**マイクロクレジットの貸付・返済の現場**  
半月に一度、村の寺院の一角に女性たちが集まって行なわれる。(ミャンマー連邦・モンユワーにて)



**稲の脱穀風景**  
刈り取った稲を庭先に運んで、牛に踏ませて穂から籾を脱粒する。(ミャンマー連邦・チャウサーにて)



**カイロの八百屋**  
カイロ・ダウンタウンにて。街のいたるところで新鮮な野菜が路上販売されている。



**コプト聖人の墓廟（外観）**  
カイロ・コプト正教会総主教座内。墓の上に教会があり、参詣者が絶えない。



**第2回アジア錦鯉大会開催風景**  
日本の伝統文化である錦鯉は、いまグローバルに拡散している。まさに空飛ぶ錦鯉である。中国・広東省にて(2009年5月14日、菅豊撮影)



**中国花鳥画に描かれる錦鯉**  
日本の伝統文化が中国の伝統文化の中に、無意識のうちに浸透、融合し、現地化している。(2009年5月14日、菅豊撮影)

# 東洋文化研究所刊行物

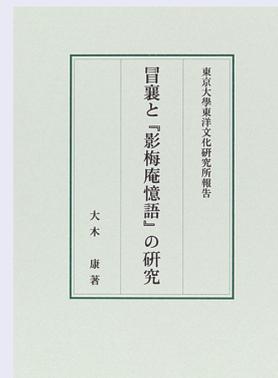
本研究所では、『東洋文化研究所研究報告』をはじめさまざまな形態の書籍、および雑誌『東洋文化研究所紀要』・『東洋文化』を刊行し、アジアに関するさまざまな学問の最新の研究成果と情報を発信しています。

## 1. 研究報告

### 『東洋文化研究所紀要別冊』

本研究所のスタッフの研究成果を収めたモノグラフ・シリーズです。通算の刊行数は64冊に達しています。2009年度の刊行は以下の通りです。

- 大木康『冒裏と『影梅庵憶語』の研究』（2010年3月）



### その他

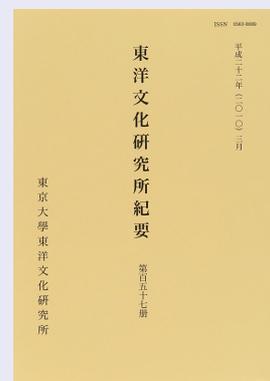
本研究所では、アジア研究のレファレンス叢書としての『東洋文化研究所叢刊』、さらに調査報告、蔵書目録、記念論集等、さまざまな出版物を随時刊行しています。

## 2. 雑誌

### 『東洋文化研究所紀要』

本研究所の紀要として、本研究所スタッフおよび研究協力者等による最新の学術的成果に基づく論文を掲載しています。年2回刊行。2009年度の刊行は以下の通りです。（掲載内容については、41ページを参照。）

第156冊（2009年12月） 第157冊（2010年3月）



### 『東洋文化』

各号に特集を設け、本研究所のスタッフを中心としたさまざまな共同研究の成果を発信しています。年1回刊行。2009年度の刊行は以下の通りです。（41～42ページを参照。）

- 第90号 特集 魂の脱植民地化（2）（2010年3月）



## International Journal of Asian Studies (IJAS)

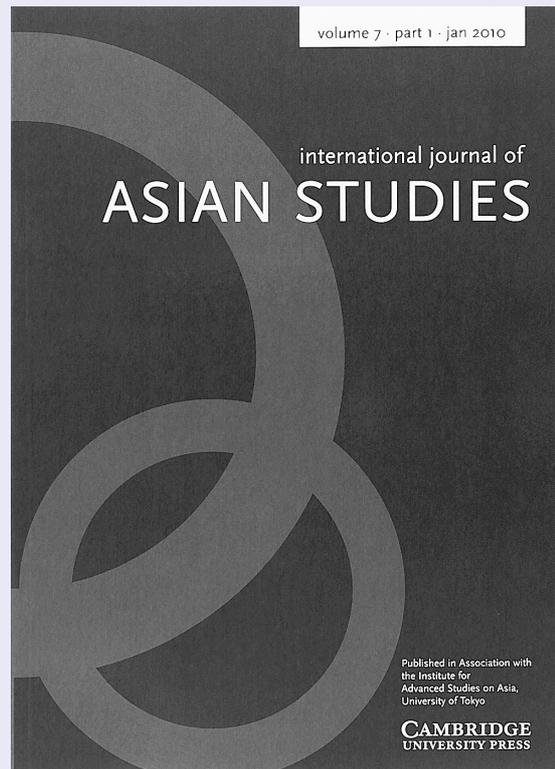
東洋文化研究所は、これまでのアジア研究のセンターとしての蓄積を踏まえ、*International Journal of Asian Studies* (IJAS) を刊行しています。

IJAS はアジアに関する主に人文・社会科学の研究成果を公刊する、国際的かつ学際的な英語による学術誌です。全世界から原稿を募集し、ケンブリッジ大学出版局から年2回刊行されます。

第1巻第1号は2004年1月に出版され、第7巻第1号(2010年1月)まで順調に刊行されています。(掲載内容については、42~43ページを参照。)

IJAS はアジアを地域として見る視点から、個々の国を越えたパターンや傾向を探る研究を重視しています。また、双方向的な研究交流を図る立場から、従来主にアジア諸語で業績を残してきたアジアの研究者を重視し、その優れた研究業績を英語圏の研究者の間に紹介する役割も果たしていきます。

投稿規定等詳細につきましては、本研究所ホームページをご覧ください。



## 東洋学研究情報センター刊行物

センターは、『東洋学研究情報センター叢刊』およびニュースレター『明日の東洋学』を刊行しています。

### 『東洋学研究 情報センター 叢刊』

アジア研究のレファレンス叢書として定評のあった『東洋学文献センター叢刊』を引き継ぐ文献資料・造形資料目録シリーズです。国内外の大学図書館や東洋学研究室、研究機関等に寄贈しています。2009年度に刊行されたのは以下の2冊です。

第11輯  
伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第3巻(2) 2009

第12輯  
東京大学東洋文化研究所蔵滝川勉文庫目録 2010

### ニュースレター 『明日の東洋 学』

センター事業の紹介、および国内外の研究者によるエッセイを掲載し、アジア学をめぐる最先端の話題を読みやすい形で提供しています。年2冊刊行で、2009年度にはNo. 22とNo. 23を刊行しました。バックナンバーはセンターのホームページからダウンロードできます。

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

# 公開講座・研究会等

本研究所では、多様な研究成果をさまざまな形で社会に還元するため、多彩な講座、研究会、セミナー、シンポジウムを公開で開催しています。最新の情報については、本研究所のホームページをご覧ください。

## 1. 公開講座

「アジアを知れば世界が見える」を基本コンセプトとして、研究所が長年蓄えてきた知的ストックをもとにして、研究所スタッフがわかりやすく解説する公開講座を毎年開催しています。2009年度は第9回「アジアを知れば世界が見える—アジアの習」の統一テーマで2009年10月24日実施しました。講師・講演タイトルは以下のとおりです。

松田訓典「インド大乘仏教における行為と心  
— 瑜伽行派の思想から —」

橋本秀美「中国の社会習慣と《論語》」

関本照夫「日常知の覚え方—ジャワの更紗  
作りから」

これまでの公開講座統一テーマ一覧

- 第1回 アジアの藝 (2001年)
- 第2回 アジアの心 (2002年)
- 第3回 アジアの交 (2003年)
- 第4回 アジアの絆 (2004年)
- 第5回 アジアの富 (2005年)
- 第6回 アジアの暦 (2006年)
- 第7回 アジアの界 (2007年)
- 第8回 アジアの濤 (2008年)



## 2. 定例研究会

本研究所の研究スタッフが、それぞれの研究成果を公開で発表します。年6回程度開催されます。昨年の発表タイトルは以下のとおりです。

2009年度

- 園田 茂人「天津定点観測調査（1997～2009）の概要」
- 佐藤 仁「私の研究来歴と将来展望：“資源”をめぐるテーマの変遷」
- 鎌田 繁「啓典宗教としてのイスラーム」
- 廣田 輝直「東文研ネットワークの課題」
- 関本 照夫「モノ・人・仕事—人類学的小括と展望」



### 3. 東文研 シンポジウム, 東文研 セミナー

本研究所では、最先端の研究成果を研究者間で広く共有し社会に向けて発信すべく、一般公開の「東文研シンポジウム」「東文研セミナー」を随時開催しています。2009年度には14回の東文研シンポジウム、25回の東文研セミナーを開催しました。

シンポジウム、セミナーの内容は、本研究所のプログラムや班研究の成果発表から、中長期に海外で研究したスタッフによる帰朝報告、書評会に至るまでバラエティに富んでいます。

次に2009年度の東文研シンポジウムの全タイトルを挙げます。

- 北島・詩朗読&シンポジウム
- 東洋文化研究所 404号室旧蔵東アジア社会経済史・法史関連史料整理報告
- 東アジア貨幣史の諸問題
- Turko-Mongol Rulers, Cities and City-Life in Iran and the Neighboring Countries
- 戦国秦漢出土文字資料と地域性——漢字文化圏の時空と構造——
- The Role and Position of Sayyid/Sharifs in Muslim Societies
- Dialogue on Southeast Asia
- Monies for ordinary people: neither precious nor national
- 中国法の美
- 言語の存続とコミュニティ——アジアを中心に——
- アジア歴史研究は最先端領域たりえるか
- 『「満州」の成立』～社会生態史学の試み～
- 結婚と幸福に見るアジアのカタチ
- 「学術情報の電子化にともなう光と影」



# 国際交流

国際交流は、アジア研究のセンターとしての研究所の活動の中核をなすものであり、所員の外国出張はもとより、各国の大学との学術交流協定を結び、多くの外国人外研究者を受け入れるなど、さまざまな形での交流を行ってきました。

## 1. 国際学術交流室

国際学術交流室は、本研究所の国際学術交流を推進するため2001年に新たに設置しました。本研究所が編集の中核を担い、ケンブリッジ大学出版会から2004年に刊行が開始された英文の国際学術雑誌 *International Journal of Asian Studies* の編集業務をはじめとして、本研究所の国際学術交流の中核としての役割を担っています。

## 2. 交流協定

本研究所は、東京大学と中国・復旦大学（1991-）およびシンガポール国立大学（2006-）との学術交流協定の担当部局として、両大学との交流の中核を担っています。

また本研究所は、香港大学アジア研究センター（1995-）、フランス高等研究院（2005-）、ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部（2005-）、カルカッタ大学歴史学部（2006-）、ベトナム・タイグエン大学経済経営学部（2006-）、台湾、中央研究院社会学研究所及び中央研究院人文社会科学研究センター、アジア太平洋地域研究センター（2010-）との間で部局間交流協定を結び、アジア各国の研究者との交流を積極的に推進してきました。

## 3. 復旦大学 文史研究院、 プリンストン大学 東アジア学部・研 究所との 学術研究 協定

東京大学東洋文化研究所は、復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部・研究所との三者間で、学術交流コンソーシアム協定を締結しました。2010年6月7日に、復旦大学文史研究院の設立3周年を記念する会合が開催され、これに合わせて設定された協定調印式に本研究所の羽田正所長が出席し、文史研究院の葛兆光院長、プリンストン大学東アジア研究所のベンジャミン・エルマン（Benjamin Elman）所長とともに協定合意書に署名しました。

このコンソーシアムは、大学や研究機関間の一般的な学術交流協定よりもさらに踏み込み、三者間の密接な協力によってアジア研究を積極的に進めようとするもので、研究者の交流や定期的な学術会議の開催に加えて、共同出版や文史研究院での当研究所教員の講義や指導も視野の内に入れています。当研究所はこの協定に則って着実に種々の事業を展開し、所員の研究成果を国際的な場で報告し、活発な意見交換を行う機会をこれまで以上に多く作ってゆきたいと考えています。コンソーシアムの具体的な企画は、決まり次第随時このウェブサイトでご紹介して行きます。



## 4. 外国出張

研究所スタッフの外国出張の件数は、2008年度141件、2009年度138件にのぼりました。

4. 海外との  
図書  
の寄贈・交換

海外の研究機関との間で、『東洋文化研究所紀要』、『東洋文化』、『センター叢刊』、『明日の東洋学』等の本研究所およびセンター発行の図書の寄贈並びに交換を行っています。寄贈・交換先は32か国、382機関に及んでいます。なお、国内については261機関と寄贈・交換を行っています。

5. 外国人研  
究者等  
の受け入れ**Robert Chard**

(Faculty of Oriental Studies, University of Oxford, University Lecturer, 2007/4/10-2009/4/9, 2009/4/16-2009/9/30)

**李 小北**

(四川大学校長助理, 2008/4/10-2009/4/9)

**城尾 ふみ子**

(シカゴ大学東アジア言語文明学部博士課程博士候補生, 2008/9/1-2009/8/31)

**李 季樺**

(東京大学博士(文学) 2006年3月, 2008/10/1-2010/9/30)

**David Durand-Guedy**

(日本学術振興会外国人特別研究員(欧米短期), 2008/10/27-2010/2/21)

**Jeffry Moser**

(Harvard University Dept. of East Asian Languages and Civilization, Ph.D. Candidate, 2008/11/1-2009/8/31)

**韓 昇**

(復旦大学歴史系教授, 2009/1/28-2009/9/27)

**Nusyirwan Hamzah**

(Center for Japanese Studies University of Indonesia, Lecturer, 2009/3/15-2009/10/15)

**孫 立祥**

(東北師範大学国際関係学院教授(博士指導教師) 東北アジア研究室主任, 中国日本史学会常務理事, 2009/4/1-2009/9/30)

**曹 三相**

(釜山国立大学国際関係研究科訪問講師, 2009/6/22-2009/12/15)

**林 正義**

(中央研究院欧米研究所研究員, 2009/7/1-2009/8/14)

**李 培徳**

(香港大学アジア研究センター助教授, 2009/7/8-2009/9/28)

**彭 春凌**

(北京大学中文系博士課程, 2009/9/1-2010/8/31)

**金 氣興**

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2009/9/1-2011/8/31)

**梁 宝衛**

(復旦大学国際関係与公共事務博士課程, 2009/9/6-2010/9/5)

**Oak Soe San**

(ヤンゴン大学博士課程1年, 2009/9/28-2009/11/27)

**華 喆**

(北京大学歴史系博士課程, 2009/9/30-2009/12/31)

**金 銀眞**

(日本学術振興会外国人特別研究員(2009年9月30日まで, 他部局受入), 2009/10/1-2011/9/30)

**Ei Ei Phyu**

(University of Yangon, PhD candidate, 2009/10/8-2009/11/22)

**Ricardi S. Adnan**

(Faculty of Social and Political Science University of Indonesia, Lecturer, 2009/10/21-2010/1/13)

**Karl Gustafsson**

(国際交流基金日本研究フェロー, 2009/11/13-2010/7/11)

**翟 学偉**

(南京大学社会学院教授, 社会心理学研究所所长, 心理学系主任, 南京大学中美文化中心兼職教授, 博士指導教官, 北京大学社会心理論研究センター兼職研究員, 2009/12/1-2010/1/31)

**朴 銀順**

(徳成女子大学校, 2009/12/10-2010/2/28)

**Micheal Dylan Foster**

(Indiana University Department of Folklore&Ethnomusicology, Assistant Professor, 2010/1/5-2010/3/23)

**金 培謔**

(国立師範大学副教授, 2010/1/17-2010/2/16)

**呉 真**

(南海大学専任講師, 2010/3/1-2011/2/28)

**John R. McRae**

(Indiana University Department of Religious, Professor, 2010/3/15-2011/3/14)

**Jan Nattier**

(Indiana University Department of Religious, Professor, 2010/3/15-2011/3/14)

**黄 偉修**

(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程卒業, 2010/3/19-2010/8/20)

**馬 立誠**

(自由作家, 学者, 2010/3/25-2010/4/24)

**Yakov Rabkin**

(モントリアル大学歴史学科教授, 2010/4/8-2010/5/2)

**王 屏**

(中国社会科学院日本研究所研究員, 2010/4/26-2010/8/16)

**施 愛東**

(中国社会科学院文学研究所副研究員, 2010/5/21-2010/11/30)

**襲 祥生**

(国立政治大学東亜研究所博士候補, 2010/5/26-2010/12/25)

**Beaud ep. Kobayashi Sylvie**

(Anthropology University of Paris Ouest Nanterre Ph.D.Candidate 2010/6/1-2011/5/31)

**馬 長山**

(黒龍江大学法学院教授, 2010/6/1-2011/5/31)

**劉 禮紅**

(ニューヨーク大学 Ph. D. Candidate, 2010/6/6-2010/7/25)

**何 思慎**

(輔仁大学日本語文学系教授, 2010/6/28-2010/9/30)

**吉村 亜弥子**

(ウィスコンシン州立大学マディソン校, Ph. D. Candidate 2010/6/30-2010/7/10)

# 教育・国内交流

## 1. 大学院教育

本研究所は以下の研究科に協力講座を出し、大学院教育を分担しています。

研究科	専攻	講座名
人文社会系	基礎文化研究	東アジア美術史学
	アジア文化研究	比較アジア社会文化研究, 南アジア社会文化研究, 西アジア社会文化研究
法学政治学	基礎法学	学際法学, 学際政治学
経済学	現代経済	アジア経済
	経済史	アジア経済史
総合文化	超域文化科学	比較民族誌
	地域文化研究	環インド洋地域文化
	国際社会科学	比較現代政治
農学生命科学	農業・資源経済学	汎アジア経済論
新領域創成科学	環境学研究系	
	国際協力学専攻	地域間連関・交流

### 学際情報学府

大学院における授業担当教員および指導学生数は以下のとおりです。

研究科	2008				2009			
	授業担当	指導学生			授業担当	指導学生		
		修士	博士	研究生		修士	博士	研究生
法学政治学	3	4	5	3	3	3	6	2
人文社会系	19	9	26	3	32	14	26	3
農学生命科学	1		2		1	1	2	
経済学	3	1	2		3		2	
新領域	1	3	1		2	16	8	
総合文化	12	6	14		12	1	15	
情報学環	4	2	3		5	3	3	
公共政策学	1				1			
(ASNET)	10				15			

## 2. 学部担当

本研究所では、多くの教員が様々な学部で3、4年生を対象とした講義を行っています。また、学部1、2年生を対象とした「全学自由ゼミナール」も担当しています。

学部	2008	2009
法	2	1
経	1	1
文	7	8
教養	5	10
農	1	1
工	1	1

### 3. 日本学術振興会特別研究員(PD)の受入れ

氏名	年度	研究課題
保城 広至	2008-2009	アジア太平洋地域主義——その歴史・理論・可能性の検討
上野雅由樹	2009	19世紀オスマン帝国社会の変容と非ムスリム臣民——アルメニア総主教座を中心に
小西 公大	2009-	インド西部タール沙漠のビール社会における社会空間の変容——生計実践と信仰の連関から
藤波 伸嘉	2009-	第二次立憲政期オスマン帝国政治史・政治思想史
大川 謙作	2009-	抗争するチベット史：チベット社会論とその語りの歴史人類学的研究
嶺崎 寛子	2009-	エジプト社会のジェンダーと法識字：女性によるイスラーム言説の創出と利用
後藤 絵美	2009-	現代におけるムスリム女性のヴェールとイスラームの教義・思想に関する比較研究
吉田 真吾	2010-	日米同盟の制度化：その歴史的展開と因果メカニズム
荻谷 康太	2010-	西アフリカ・イスラーム地域研究：宗教的・知的連関網の探求および宗教思想の比較考察
内藤まりこ	2010-	七夕伝説をめぐる物語文化圏の研究

### 日本・アジアに関する教育研究ネットワークとの協力

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（通称 ASNET : Asian Studies Network）は、東京大学において日本・アジアと接点を持つ教育研究に従事している研究者間の協力や情報交換を促進し、新しい教育や研究の可能性を探るために設立された東京大学の機構です。これは多くの研究者が垣根を越えてつながることができ、かつ研究の進展や社会情勢の変化に柔軟に対応できる、ヴァーチャルなネットワーク型の組織です。「日本・アジアと接点を持つ教育研究」には、文系・理系を問わず、日本以外のアジアを対象とするもの（従来の「アジア研究」）だけではなく、何らかの点でアジアと関連を持つ日本についてのものも含まれます。既存の各部局の研究者がこのネットワークに参加し、活用することで、個人の研究が進展すること、相互に連携した研究や教育が生まれてくること、さらに、日本、アジア、そして世界から、さまざまな方がこのネットワークに参加されることを目指しています。

東洋文化研究所では、2001年にこのネットワークが ASNET として設立された時から事務局を担い、2005年に国際連携本部 ASNET 推進室に改組された後も支援を行って参りました。そして2010年に、東京大学の機構へと発展したことを契機に、事務担当部局となり、副ネットワーク長と兼任教員としても所員が参加しています。

また、本ネットワークが企画・運営する、新しい大学院教育活動として、「アジアにおける環境・開発・歴史」（2006年度）、「日本・アジア学の可能性」（2007年度）、「アジア研究のフィールドワーク」（2006-2008年度）を開講しました。この活動は、2009年度から全学の研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムとして実施されることとなり、研究所教員が毎年10科目以上を提供しています。

今後、共催セミナー等通じて、日本・アジアに関する教育研究ネットワークとの協力を、より発展させていきます。

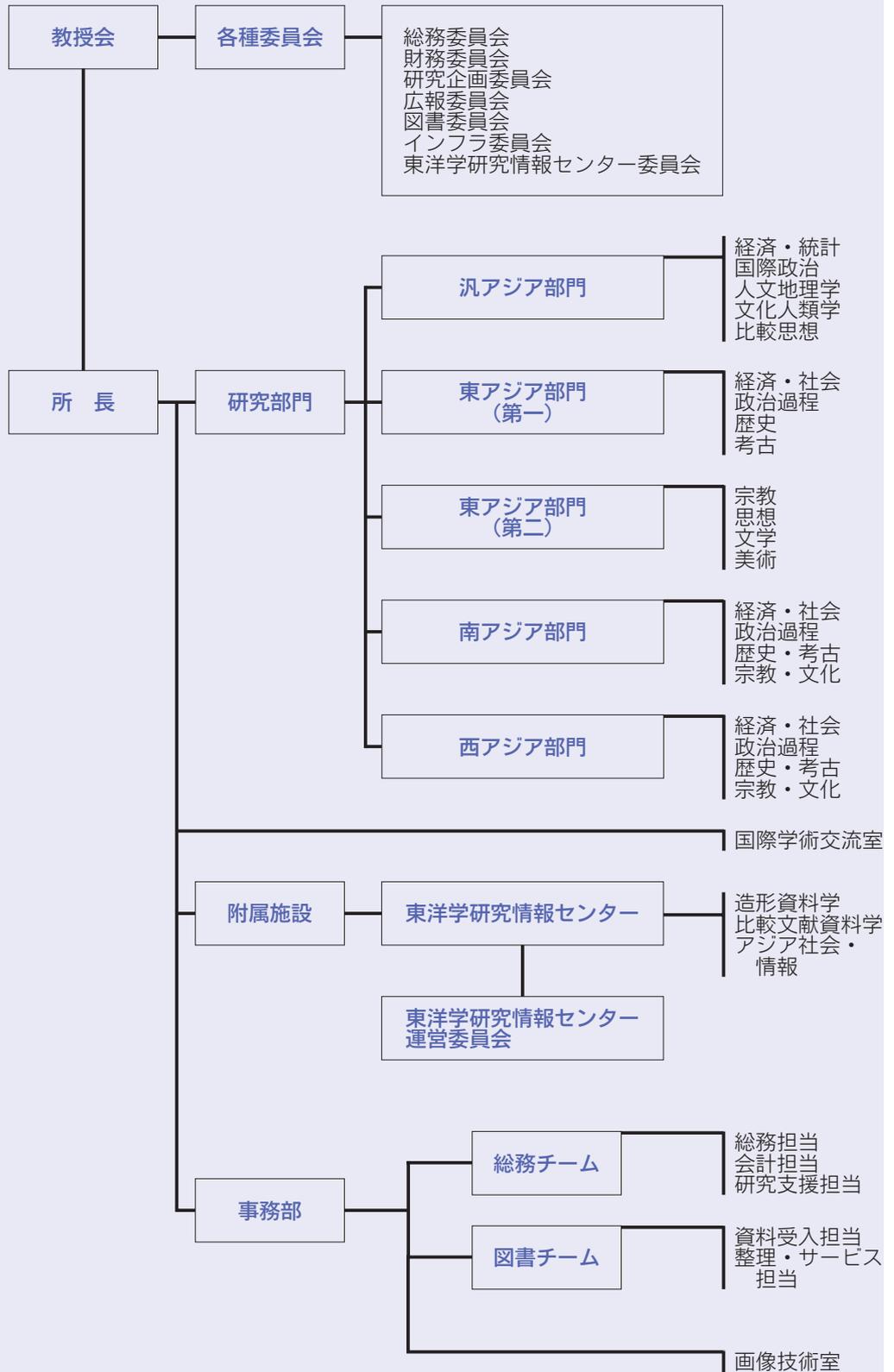


日本・アジアに関する教育研究ネットワーク ホームページ  
(<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>)



研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラム シラバス

## 組織構成図



## 現教職員 (2010年7月1日現在)

所長

羽田 正

副所長

大木 康

### 汎アジア部門

池本 幸生 教授

佐藤 仁 准教授

田中 明彦 教授(兼)

松田 康博 准教授

松井 健 教授

菅 豊 教授

名和 克郎 准教授

古澤 拓郎 特任准教授(兼)

安田 佳代 特任助教

### 西アジア部門

鈴木 董 教授

長澤 榮治 教授

羽田 正 教授

榎屋 友子 教授

鎌田 繁 教授

森本 一夫 准教授

辻 明日香 助 教

### 国際学術交流室

ロバート チャード  
ローレンス 准教授

### 東アジア部門 (第一)

高見澤 磨 教授

安富 歩 教授

黒田 明伸 教授

真鍋 祐子 教授(兼)

平勢 隆郎 教授

小寺 敦 准教授

### 附属東洋学研究情報センター

センター長  
羽田 正 教授

榎屋 友子 教授(兼)

板倉 聖哲 准教授(兼)

丘山 新 教授

名和 克郎 准教授(兼)

廣田 輝直 准教授

園田 茂人 教授(兼)

松田 康博 准教授(兼)

スミス ロジャー・  
デール 准教授(兼)

松田 訓典 助 教

### 東アジア部門 (第二)

丘山 新 教授(兼)

尾崎 文昭 教授

大木 康 教授

小川 裕充 教授

板倉 聖哲 准教授

### 南アジア部門

加納 啓良 教授

高橋 昭雄 教授

古井 龍介 准教授

永ノ尾信悟 教授

馬場 紀寿 准教授

### 事務部

事務長  
武田 達明

専門員(総務チームリーダー)  
渡邊 雅夫

主査(図書チームリーダー)  
三浦 圭子

### 総務チーム(総務担当)

係長  
齊藤 泰徳

係員  
守 幸代

### 総務チーム(会計担当)

係長  
高橋 紀之

主任  
滝井 洋一

主任  
荻荘 美穂

### 総務チーム(研究支援担当)

係長  
押木 久雄

主任  
秋山 真紀

### 図書チーム(資料受入担当)

係長  
須永 雅子

主任  
菅原 英子

### 図書チーム(整理・サービス担当)

係長  
山口 香織

専門職員  
大川 直子

係員  
安食 優子

### 画像技術室

技術専門職員  
野久保雅嗣

## 名誉教授

	称号授与
川野 重任	1972. 5
窪 徳忠	1974. 5
中根 千枝	1987. 5
尾上 兼英	1988. 5
山崎 利男	1990. 5
板垣 雄三	1991. 5
池田 温	1992. 5
山田 三郎	1992. 5
田仲 一成	1993. 5
友杉 孝	1993. 5
松丸 道雄	1995. 5
松谷 敏雄	1997. 5
蜂屋 邦夫	1999. 5
岡本 サ工	2001. 5
後藤 明	2002. 5
濱下 武志	2004. 5
猪口 孝	2005. 5
柳澤 悠	2005. 5
原 洋之介	2006. 5
関本 照夫	2010. 6
中里 成章	2010. 6
宮嶋 博史	2010. 6

## 歴代事務長

	在職期間
山高 力三	1941.11.27-42. 9.30
根本 喜蔵	1942.10. 1-44. 7. 9
長内太郎吉	1944. 7.10-54. 7.15
工藤松之助	1954. 7.16-63.10.31
宮本 健	1963.11. 1-69. 2.28
新井 康次	1969. 3. 1-74. 3.31
斎藤 益	1974. 4. 1-77. 6.30

三浦 皓守	1977. 7. 1-81. 3.31
伊東秀三郎	1981. 4. 1-83. 3.31
岡部 藤男	1983. 4. 1-86. 3.31
木内 義一	1986. 4. 1-90. 3.31
江澤 兵治	1990. 4. 1-92. 6. 1
石川 純男	1992. 6. 1-95. 3.31
千葉 勝志	1995. 4. 1-97. 3.31
小林 邦男	1997. 4. 1-99. 3.31
石井 金夫	1999. 4. 1-2001.3.31
柿沼 肇	2001. 4. 1-2004.3.31
小川 勝美	2004. 4. 1-2006.9.30
佐沼 繁治	2006.10. 1-2009.3.31
武田 達明	2009. 4. 1- 現在

## 教職員の異動

准教授 ウェップ ジェイソン	2009 (平成 21) 年 9 月 30 日辞職
准教授 ロバート チャード	2009 (平成 21) 年 10 月 1 日採用
教授 関本照夫	2010 (平成 22) 年 3 月 31 日定年退職
教授 中里成章	2010 (平成 22) 年 3 月 31 日定年退職
准教授 橋本秀美	2010 (平成 22) 年 3 月 31 日任期満了退職
教授 真鍋 祐子	2010 (平成 22) 年 4 月 1 日昇任
准教授 馬場紀寿	2010 (平成 22) 年 4 月 1 日採用
特任助教 安田佳代	2010 (平成 22) 年 4 月 1 日採用

係長 (会計担当) 池田 洋  
2009 (平成 21) 年 7 月 1 日転出

係長 (会計担当) 高橋紀之  
2009 (平成 21) 年 7 月 1 日転入

一般職員 (会計担当) 寺門ゆき  
2009 (平成 21) 年 7 月 1 日採用

主査 (図書チームリーダー)  
風巻みどり  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転出

係長 (資料受入担当) 田崎淳子  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転出

一般職員 (会計担当) 千葉大輔  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転出

一般職員 (整理・サービス担当)  
等々力達也  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転出

主査 (図書チームリーダー)  
三浦圭子  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転入

係長 (資料受入担当) 須永雅子  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転入

専門職員 (整理・サービス担当)  
大川直子  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転入

主任 (会計担当) 滝井洋一  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日転入

主任 (資料受入担当) 菅原英子  
2010 (平成 22) 年 4 月 1 日昇任

主任 (会計担当) 荻荘美穂  
2010 (平成 22) 年 5 月 16 日転入

一般職員 (会計担当) 井上美緒里  
2010 (平成 22) 年 6 月 29 日辞職

一般職員 (会計担当) 寺門ゆき  
2010 (平成 22) 年 6 月 29 日任期満了退職

係長 (研究支援担当) 中村 透  
2010 (平成 22) 年 7 月 1 日転出

一般職員 (研究支援担当)  
狭間利恵  
2010 (平成 22) 年 7 月 1 日転出

係長 (研究支援担当) 押木久雄  
2010 (平成 22) 年 7 月 1 日転入

主任 (研究支援担当) 秋山真紀  
2010 (平成 22) 年 7 月 1 日転入

## 財 政 (2009 年度)

### 1. 財政

2009 年度			
収入 (千円)		支出 (千円)	
大学運営費	159,959	教育研究経費	54,421
部局長裁量経費	10,741	一般管理費	11,598
間接経費	11,966	物件費	88,967
科学研究費	115,100	旅 費	77,408
共同研究	1,818	賃金・謝金等	34,778
寄付金	7,635	翌年度繰越	76,792
前年度からの繰入	36,745		
合 計	343,964	合 計	343,964

### 2. 科学研究費

2009 年度		
研究種目	交付決定額 (千円)	件数
特定領域研究	13,000	2
新学術領域	10,000	2
基盤研究 S	38,800	2
基盤研究 A	33,600	3
基盤研究 B	12,600	5
基盤研究 C	800	1
萌芽研究	1,500	1
若手研究スタートアップ	1,200	1
若手研究 B	600	1
特別研究員奨励費	11,700	13
研究成果公開促進費	4,500	1
合 計	128,300	32

### 3. その他の経費

三菱財団助成金

旭硝子財団・ステップアップ助成

財団法人 JFE 21 世紀財団アジア歴史研究助成金

大日本印刷株式会社との共同研究

## 施 設

1941 年 11 月	東京帝国大学附属図書館内に新設	1984 年 3 月	全面改修工事完成
1948 年 9 月	文京区大塚町 56 旧東方文化学院建物に移転。附属図書館内に分室をおく 敷地面積 720 m <sup>2</sup> 本館建物面積 6,612 m <sup>2</sup>	2006 年 2 月	研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明 同年 7 月以降 研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施
1965 年 10 月	本郷構内新庁舎第 1 期工事完成により一部移転	2007 年 8 月	研究所建物耐震補強・改修工事開始
1968 年 7 月	本郷構内新庁舎に全面移転完了	2008 年 3 月	工事完了
1982 年 3 月	総合研究資料館と交換分合し、全館を使用 建物面積 6,577 m <sup>2</sup>	5 月	仮移転先からの再移転を開始
		9 月	再移転完了

## 【主要所蔵図書】

### [大木文庫]

本研究所創設時に、大木幹一氏より中国法制関係書総数 3,168 部、45,452 冊の寄贈を受けた。公牘類の数百部は本文庫の柱梁をなし、法律関係の貴重書をはじめ、明清以後の時期の研究には不可欠の蒐集資料である。1959 年に『東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録』が編纂され、刊行された。

### [帝国学士院東亜諸民族調査室旧蔵書]

1944 年帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、その蔵書の和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊が移管された。このなかには西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献が集められている。

### [東方文化学院旧図書]

1929 年に、東方文化に関する研究機関として、外務省所管の東方文化学院東京研究所が創設されたが、1948 年に廃された。その旧蔵書と漢洋あわせて 103,587 冊が、1967 年 3 月に本研究所に移管された。漢籍の中核は、1929 年に中国浙江省の徐則恂氏より一括購入した東海蔵書楼蔵書である。

### [松本忠雄氏旧蔵書]

1949 年度科学研究費により松本忠雄氏旧蔵の和漢洋書、雑誌など約 3,000 冊を購入した。とくに近代中国研究資料として重要なものがある。

### [雙紅堂文庫]

1951・53 両年度科学研究費により、長澤規矩也氏旧蔵の約 3,000 冊を購入した。その内容は明清時代の戯曲小説類である。1961 年 1 月、本研究所創立 20 年にあたり、同氏から約 150 冊の補充を得るとともに、『雙紅堂文庫分類目録』を刊行した。

### [清野文庫]

1952・53 両年度科学研究費により、清野謙次氏旧蔵洋書 750 冊を購入した。人類学・考古学関係のものを根幹とする。1978 年 3 月に『東京大学東洋文化研究所清野文庫分類目録』を刊行した。

### [矢吹慶輝氏旧蔵書]

1952 年度科学研究費により、矢吹慶輝氏旧蔵洋書約 360 冊を購入した。英仏独のマニ教の文献を中心とし、仏教遺跡の発掘報告書も含まれている。

### [下中文庫]

下中弥三郎氏より、1953 年 1 月から 1957 年 6 月までの、戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種および戦後出版の東洋関係洋書 130 冊の寄贈を受けた。

とくに中国書は、当時入手できた書の主要なものをほとんど網羅している。

### [東京銀行調査部旧蔵資料]

1959・60 両年度にわたり、東京銀行調査部所蔵の経済関係書を主とする和漢書・資料類約 18,000 冊の寄贈を受けた。

### [仁井田文庫]

本研究所名誉教授仁井田陞氏の逝去（1966 年 6 月）後、所蔵の中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本を受け入れた。大木文庫とともに旧中国の社会研究に重要なものである。1999 年 3 月に『東洋学文献センター叢刊 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 附和洋書』を刊行した。また清代公私文書類も「東京大学東洋文化研究所 仁井田陞博士蒐集中国文書目録（稿）」として整理した。

### [我妻文庫]

我妻栄氏の逝去（1973 年 10 月）後、所蔵の和洋法学文献および各種資料が東京大学に寄贈された際、本研究所はとくにアジア法制関係文献資料総数 647 部 932 冊の寄贈を受けた。1982 年 3 月に『我妻栄先生旧蔵アジア法制関係文献資料目録』を刊行した。

### [倉石文庫]

1975 年度に本学名誉教授倉石武四郎氏の漢籍を主とする蔵書を収蔵することとなり、1981 年度までにその重要な部分、漢籍約 4,300 点、現代中国書 2,300 冊、および和洋書 3,400 冊を購入した。

### [江上文庫]

1981・82・84 各年度にわたり、本学名誉教授江上波夫氏の蔵書のうち、歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書の一部約 2,550 点を購入した。

### [Daiber Collection I, II]

1986・87・94 年度にわたり、東洋学文献センターと協力し、ハンス・ダイバー氏の蒐集した計 487 点の写本を購入した。イスラームの宗教、思想、歴史に関する重要な資料である。1988/96 年に Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection I/II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber を刊行した。

### [文淵閣四庫全書影印本]

1988 年度に文淵閣本四庫全書影印本（索引つき）全 1,501 冊を購入した。清代以前の中国の古典文献を網

羅した最も基本的な叢書で、中国研究上不可欠の重要性をもっている。

#### [\[オランダ植民地省公文書索引およびジャワ官報\]](#)

1989年度に、マイクロフィッシュ化された資料一式を購入した。前者はオランダ国立公文書館所蔵の旧植民地省文書（1850年～1921年）の索引書数百巻分を網羅し、後者はインドネシアのオランダ植民地政府が1928年～1939年に公布した官報の集成である。

#### [\[乾隆版大蔵経\]](#)

1990年度に全724函（毎函10冊）、大清三蔵聖教目録一函（5冊）を購入した。中国最後の木版大蔵経で、1,657部の仏教典籍が収録されている。漢文の大蔵経で経版木が保存されているものは、高麗蔵とこの乾隆版のみで、きわめて貴重な資料である。

#### [\[Ouseley Collection\]](#)

イギリスの外交官で東洋学者のG. Ouseley 卿（1770～1844）の旧蔵書の一部。17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ人のインド、中近東への旅行記とペルシア文学作品を主とした60点、全106冊からなる。Ouseley 自身の書き込みが随所に見られる点など、資料的価値が高い。

#### [\[Müteferrika Collection\]](#)

1727年にオスマン帝国の首都イスタンブールで開設された、最初のムスリム経学の活版印刷所で刊行された書籍17点。イスラム世界における最早期の刊本。

#### [\[南アジア伝導教団資料集成\]](#)

南アジア各地で伝導活動を行ったキリスト教団の、18世紀末から20世紀までの年報、諸会議の議事録、往復文書、報告書等を含んだマイクロフィッシュ資料である。

#### [\[Indonesian Monographs, 1945—1973\]](#)

オランダの王立・言語・地理・民族学研究所が蒐集した、独立後インドネシアの社会科学関係出版物3,258点をマイクロフィッシュにまとめたもの。内容はきわめて多彩で、インドネシア現代史の研究に不可欠の資料集である。

#### [\[今堀文庫\]](#)

広島大学名誉教授今堀誠二氏の逝去（1992年10月）後、所蔵の漢籍300点、中国書2,000冊、文書資料500点を購入した。近現代中国の社会史資料、華僑史資料など多くの原資料を含む。（1994年度一般設備費）

#### [\[東アジア宗族社会史関係資料\]](#)

東アジア全域にわたる宗族社会史の比較研究に重要な資料集。朝鮮族譜集成494冊、中国華南宗族社会史資料、南洋華僑・華人関係資料2,263冊からなる。

族譜、社会、華人史の基本資料として貴重な資料である。（1995年度一般設備費）

#### [\[中国西北文献叢書\]](#)

陝西、甘肅、寧夏、青海、新疆などの中国西北地方に関する、歴史、地理、民俗、文学そのほかの諸分野の基本文献を網羅した叢書。（1995年度一般設備費）

#### [\[オスマン語・トルコ語年鑑定期刊行物コレクション\]](#)

トルコにおいてオスマン語および現代トルコ語で刊行された年鑑類、定期刊行物。19世紀初頭オスマン帝国時代の国家年鑑や、西アジア各地方およびバルカンに関する公的な年鑑など、政治、社会、経済から文化にいたる広汎な分野を網羅し、近現代の西アジア研究者にとって類例の少ない貴重な資料群である。（1996年度一般設備費）

#### [\[西アジア関連写本集成\]](#)

ミンガナ・コレクション、ロンドン大学東洋アフリカ研究所などが所蔵するアラビア語を中心としたマイクロフィッシュによる写本集成。クルアーン学から、法学、文学、自然科学、歴史学、宗教諸学を含むイスラームを中心とした西アジアの思想・文化・歴史の研究に不可欠の資料である。（1996年度一般設備費）

#### [\[中国第一歴史档案館所蔵清代档案資料\]](#)

1997年度に標記档案資料のマイクロフィルムを購入した。内容は「宮中硃批奏摺財政類」「軍機処録副奏摺全国水利雨水自然災害資料」「内閣京察冊」「宮中履歴片」「戸部一度支部棒銀米冊」「琿春副都統衛門档案」「刑法部胎谷案」「吏部造送封贈姓氏冊」「清代琉球档案史料」である。これらは総数一千万件におよぶ中国第一歴史档案館所蔵の清朝公文書の一部を成すものであり、清代中国の政治・制度・経済・社会の分析において極めて重要な第一次資料である。（1997年度一般設備費）

#### [\[夕嵐草堂文庫\]](#)

本学名誉教授前野直彬氏の逝去（1998年1月）後、小説類に特色を持つ所蔵の漢籍約500点4,400冊を購入し、「夕嵐草堂文庫」と名付けた。中に貴重な版本を含んでいる（1998年度リーダーシップ支援経費）。2003年3月に『東洋学研究情報センター叢刊2 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録』（山之内正彦編）を刊行した。

#### [\[伊藤文庫\]](#)

京都大学名誉教授故伊藤義教氏の古代・中世イラン関係旧蔵書849冊。古代・中世イラン語テキスト類を中心としている。『東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤

義教文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2004・2009年）が刊行されている。

#### [田中則雄氏旧蔵書]

田中則雄氏が収集したインドネシアに関するオランダ語を中心とする洋書文献コレクション。『東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2002年）が刊行されている。

#### [安田文庫旧蔵『論語』コレクション]

昭和戦前期における古文書・古籍のコレクションとして名高い「安田文庫」旧蔵の『論語』各種和刻本9点ほか2点を、収集者安田善二郎（二代目）氏の直孫である安田弘氏から寄贈されたもの。なかでも正平版『論語』（単跋早印本，室町時代，15世紀前半の刊本）は、日本で仏教経典以外では最初の木版印刷の書籍であるとともに、六朝時期における『論語』の姿を伝えるテキストとして、今日でもきわめて珍重されているものである。

#### [上村文庫]

マハーバーラタの日本語全訳など、古典サンスクリット詩学に関する研究で多大な成果をあげられた東洋文化研究所故上村勝彦教授の旧蔵書で、古典サンスクリット文学・詩学、インドの古典学問、宗教・哲学に関する文献を主体とする658点のサンスクリット語典籍である。

#### [タイ語文献コレクション]

友杉孝本学名誉教授からご寄贈いただいた文献2,185点を基礎に、2,728冊のタイ語文献から構成されている（2006年3月現在）。東南アジア歴史・地理を中

### **【主要所蔵資料】**

#### [殷代甲骨]

本研究所所蔵甲骨は、次の三部分からなる。第一は、故河井仙郎氏旧蔵の1,708片で、1979年に現蔵者井上富美子氏より寄贈された。第二は故田中慶太郎氏旧蔵の393片で、1979年に購入した。第三は旧蔵者三浦清吾氏より寄贈された2片である。合計2,103片に達し、京都大学人文科学研究所に次ぐ、わが国有数の蒐集である。これは、整理・綴合の上、松丸道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』（東洋文化研究所報告1983年）として刊行された。

心にした貴重な資料である。

#### [荒木文庫]

我国の波斯（ペルシア）語研究の先駆者である荒木茂氏が財団法人啓明会の補助を受け、1922年から1931年にかけて収集された波斯（ペルシア）関係の辞典、紀行、歴史、言語、美術等に関する洋書938点1,112冊である。『東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2007年）が刊行されている。

#### [両紅軒文庫]

伊藤漱平・東京大学文学部元教授の旧蔵書。明末清初の文人李漁の諸作品及び清代の小説『紅樓夢』を中心に、作品の版本・研究書・翻訳を網羅している。天下の孤本である『嬌紅記』（鄭雲竹刊本）、『紅樓夢』最初期の印本である「程甲本」などを含む。

#### [滝川勉文庫]

滝川勉・筑波大学農林学系および日本大学農獣医学部元教授の旧蔵書。フィリピンを中心に東南アジア各国の経済、政治、社会、歴史、文化に関する多数の研究書と資料を網羅している。『東京大学東洋文化研究所所蔵滝川勉文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2010）が刊行された。

#### [山崎文庫]

本研究所の山崎利男名誉教授からご寄贈いただいたものである。約490点。主にインド古代史とインド法制史の文献からなり、近代史関係も含まれている。W. ジョーンズによる『マヌ法典』の翻訳など稀覯書もみられる。言語は英語、サンスクリット、マラーティー、ベンガリーなどである。

#### [中国古銭・錢范]

旧東方文化学院の蒐集品で、殷代の貝貨、戦国時代の布銭・刀銭・郢爰からはじまり、歴代の代表的貨幣を収蔵する。約1,250点の古銭と、10点の銭の范模を含む。

#### [中国考古資料]

上記の甲骨、古銭以外に、瓦当約110点、鏡、戈、戟、鏹などの青銅器、玉器、土器、磚、磚製買地券、壁面片、俑、仏像、衣服、室内装飾品、土俗品がある。大部分は旧東方文化学院が購入し、本研究所に移管されたものである。

### [中国絵画資料（原版・焼付写真・カラスライド・デジタル画像等）]

米国、カナダ、欧州、アジアの美術館、個人蒐集家が所蔵する中国絵画、および日本現存の中国絵画に関するものが主体で、その他に米国ミシガン大学アーカイヴより購入した台北故宮博物院所蔵中国美術作品の焼付写真、東京国立文化財研究所原版からの羅漢・十王国の焼付写真等があり、現在約 20 万点にのぼる。「東洋学文献センター叢刊」として 10 冊の目録が 1977～83 年、1992 年～98 年の両度にわたって刊行され、図録は東京大学出版会より『中国絵画総合図録』（全 5 巻）が 1982 年～83 年、『同 続編』（全 4 巻）が 1998 年～2001 年の両度にわたって刊行された。現在、第三次世界調査を実施中である。

### [中国清代・民国期の文書資料]

17 世紀から 20 世紀におよぶ、北京をはじめ嘉興、武進、蘇州、通州、宝応、鳳山などの土地文書を中心とし、その他公私文書類約二千数百点がある。仁井田陞名誉教授旧蔵遺贈分や旧東亜研究所収集文書等を含む。目録と内容の一部は、1983 年～86 年に『東洋文化研究所蔵中国土地文書目録・解説（上）（下）』（東洋学文献センター叢刊）として刊行された。（閲覧準

備中。）

### [内蒙古出土学術資料]

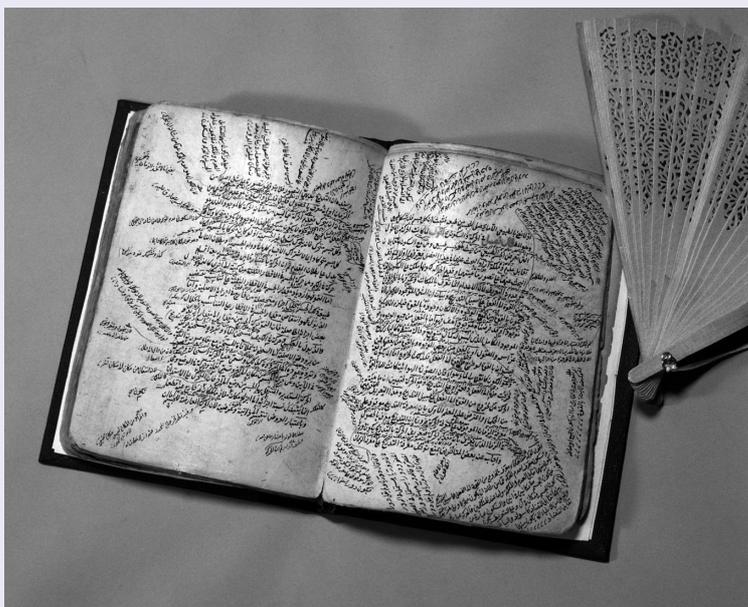
江上波夫名誉教授が戦前に内蒙古で発掘・採集した資料約 1 万点が、1983 年に寄贈された。主として土器片・陶器片である。資料の一部は江上氏のいくつかの論文に掲載されているが、圧倒的多数は未発表のものである。

### [インド・イスラム史跡調査関係資料]

デリーおよびインド各地に現存するデリー・スルタン朝時代のムスリム遺跡に関する資料で、写真、実測図などが主なものである。1959 年～62 年度に「東京大学インド史跡調査団」が実施した現地調査の成果の一部である。『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』第 1 巻（1967）、第 2 巻（1969）、第 3 巻（1970）が刊行された。

### [西アジア考古資料]

古代イラン文明の研究を目的として、1956 年以来「東京大学イラン・イラク遺跡調査団」が両国における遺跡 14 か所を発掘・調査した結果、収集したものの数は数万点に達し、大部分は発掘品で、考古学上第一級資料である。1958 年から 1984 年にかけて『イラク・イラン遺跡調査団報告』20 冊が刊行されている。



13 世紀の哲学者アブハリイの著したギリシア的哲学（ファルサファ）の概論書『哲学の導き』についての 14 世紀注解書の写本。

## 【交流協定】

### 【香港大学アジア研究センターとの学術交流協定】

本研究所が交流拠点の役割を果し、東京大学の海外学術研究拠点を強化する一環として、1995年10月本研究所は香港大学アジア研究センターとの間に交流協定を結び、共同研究を開始し、2000年10月および2005年10月にそれぞれ5年延長の更新をした。協定の内容は、(1) 共同研究の推進、(2) 研究者の交流、(3) 資料・研究情報の交換の三項からなる。

### 【中国・復旦大学との学術交流協定】

東京大学と復旦大学との間における学術交流協定は、1991年10月に結ばれた。この協定の運用は、東京大学では、当初理学部が担当部局であったが、1996年に更新期限となり、その後東洋文化研究所が担当することとなった。2006年に再更新している。交流の内容は、両校間における(1) 教員、研究者、院生、学生の交流、(2) 共同研究の計画と実施、(3) 講義とセミナーの実施、(4) 学術情報および学術刊行物の交換、などである。

### 【シンガポール国立大学人文・社会科学部】

1997年4月にシンガポール国立大学人文・社会科学部社会学科と結んだ学術交流協定を2000年1月に同学部との5ヵ年間の協定に改定し、2005年1月に更新した。研究者の交流と研究資料の相互交換を主な目的とするこの協定は、当研究所の先端地域研究プログラム「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」を効果的に推進するうえでも、重要な役割を果たすものと位置づけられてきた。しかしこれに加えて2006年1月には、東洋文化研究所が担当部局となり、東京大学とシンガポール国立大学との大学間協定が締結されたためにこの部局間協定は2010年1月で終結した。

### 【ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部】

2005年8月にブルネイにおける唯一の大学で、国立の総合大学でもあるブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部と、研究交流および学術情報の交換を主な目的とする部局間交流協定を締結した。1998年から東南アジア研究コースを設けて同分野での対外交流を望んでいる同学部からの要請に応じたものであるが、東洋文化研究所としてもブルネイとの交流を深めることにより、東南アジア地域とくにマレー世界とボルネオ島の文化・歴史・社会についての知見を拡大することが期待されている。

### 【フランス高等研究院】

2005年5月に、本研究所と東京大学史料編纂所が共同で、フランス高等研究院（パリ）と5年間の学術交流協定を締結した。フランス高等研究院は、19世紀後半に設立された大学院大学で、フランスにおける歴史学・宗教学・言語学などのいわゆる人文学研究の拠点である。両機関は、2002年（パリ）と2004年（東京）に開催された「日仏コローク」ですでに学術交流を開始しており、協定の締結によって、研究者の交流、共同研究の実施、資料・情報の交換などの実質的な研究協力がさらに進むことが期待される。

### 【カルカッタ大学歴史学部】

本交流協定は2006年1月にコルカタで調印された。カルカッタ大学は創立150周年を迎えるのを機会に、日本における南アジア研究のセンターの一つである東洋文化研究所との交流を深め、さらにそれを東京大学全体に拡大することを希望している。東洋文化研究所としては、インド東部の中心的な大学であるカルカッタ大学との学術交流を通じて、南アジア世界、とくにベンガル、アッサム、オリッサ、東部諸州などの地域の宗教・文化・歴史・社会に関する研究を一層進展させることを期待している。

### 【ベトナム・タイグエン大学経済経営学部】

2006年1月にタイグエン大学経済経営学部と5年間の学術交流協定を結んだ。タイグエン大学はベトナム中部高原にあり、ラオス・カンボジアとの国境に接し、多くの少数民族が暮らし、また世界第2位のコーヒー輸出国であるベトナムの主要産地である。この地域は東南アジア研究のフロンティアのひとつであり、経済・文化・環境などの分野で共同研究を行う。

### 【台湾・中央研究院との学術交流協定】

本交流協定は、2010年2月に台北で調印された。中央研究院側のパートナーが社会学研究所と人文社会科学センター付属アジア太平洋地域研究センターの2か所という、少々変則的な形での協定となった。交流内容は、(1) 教員及び研究者の交流、(2) 共同研究の実施、(3) 講義・講演・シンポジウムの実施、(4) 学術情報及び資料の交換。だが、これから具体的に台湾史や国際政治、海域史、比較社会学、華人研究、環境保護運動研究などの領域で共同研究や合同シンポジウムなどが進められることになるだろう。

## 【刊行物一覧】

### 東洋文化研究所刊行物 (2008・2009年度)

#### 東洋文化研究所紀要

##### ●第154冊 (2008年12月)

覃影 顧祖禹《古今方輿書目》附評介

倉本尚徳 北朝時代の多佛名石刻——懺悔・稱名信仰と關連して——

小泉順子 ラタナコーシン朝一世王期シャムの対外關係——広域地域像の検討にむけた予備的考察——

土屋太祐 玄沙師備の昭昭靈靈批判再考

Kei KATAOKA A Critical Edition of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*: The Section on Kumāriḷa's Refutation of the *Apoha* Theory

##### ●第155冊 (2009年3月)

赤城美恵子 清代服制事案に関する一考察——秋審手続を通じてみる——

伊藤徳也 生活のための生活——周作人における「生活の芸術」——

松浦史子 江淹「瑤草」考——郭璞「蒼草」の継承と展開——

井上正夫 十一世紀の日本における送金為替手形の問題について

中里成章 訳注『ラダビノド・バル博士(一八八六～一九六七)略伝』

ネーナパー・ワイラートサック(藪下) 東南アジアからの外国人労働者——經濟連携協定に基づく看護師・介護福祉士の受け入れをめぐる——

玄大松 政策決定過程の日韓比較——「首都移転問題」を事例として——

谷垣真理子 管理された民主化——普通選挙導入をめぐる香港の事例——

今村弘子 中朝の食糧事情と両国經濟關係

塩田光喜 トリックスター、エコ・ツーリズム、ディベロップメント——パプアニューギニア高地村落における開発実践——

##### ●第156冊 (2009年12月)

小寺敦 先秦秦漢の傳世文獻にみえる「讓」について——先秦儒家系文獻を軸として——

倉本尚徳 北齊臨淮王像碑の試譯と初步的考察

黃仕忠 天理圖書館所藏中國古代戲曲目錄

加藤雄三 「接収台湾司法」小考

池田一人 ビルマ植民地期末期における仏教徒カレンの歴史叙述——『カイン王統史』と『クウイン御年代記』の主張と論理——

田中公明 判読困難なサンスクリット写本を、いかに修補するか?——Nāgabodhiの『安立次第論』第1章に見るテキスト復元——

Kei KATAOKA A Critical Edition of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*: —The Buddhist Refutation of Kumāriḷa's Criticism of *Apoha*

##### ●第157冊 (2010年3月)

小寺敦 上海博楚簡『鄭子家喪』譯注——附・史料の性格に關する小考——

高遠拓児 清代秋審文書と「蒙古」——十八世紀後半～二十世紀初頭の蒙古死刑事案處理について——

加藤博 エジプト農村における「家族」(アーイラ)——19世紀中葉オアシス村落に關する住民登録文書に基づいて——

宮脇聡史 フィリピン・カトリック教会の公文書に見られるフィリピン史解釈

谷垣真理子 カナダへの香港人移民

衣川賢次 『祖堂集』異文別字校證——『祖堂集』中の音韻資料——

#### 東洋文化

##### ●第89号 (2009年3月)

特集 魂の脱植民地化——日本とその周辺諸国のポストコロニアル状況を解消するための歴史学——

安富歩 はじめに

第1部 私を含む研究

深尾葉子 魂の脱植民地化とは何か——呪縛・憑依・蓋——

千葉泉 「自分らしさ」を中心に据える——私が中南米の歌をうたう理由——

等々力政彦 共生のダイナミクス——現場から見た進化についての小論文——

第2部 理論的考察

本條晴一郎 ハラスメントの理論

Ursula Weiss Colonization and Decolonization seen from the viewpoint of Analytical/Jungian Psychology

第3部 無縁

安富歩 *commūnis* からの離脱

内田力 無縁論の出現——網野善彦と「第二の戦後」——

与那覇潤 無縁論の空転——網野善彦はいかに誤読されたか——

## 第4部 開発・環境問題

李昌平 中国农民自主性与中国自主性——从被殖民到自我殖民——

Dixon Wong Heung Wah 'Colonization' in a Japanese Company in Hong Kong: The Nature of the Managerial Control of Yaohan Hong Kong

富田啓一 内モンゴル日本人植林活動の硬直化過程——使命感という呪縛とその破壊性——

宮本万里 ブータンの変遷——依存を通じた自立の戦略——

## ●第90号 (2010年3月)

特集：魂の脱植民地化(2)——「共同体に」概念に依拠しない秩序形成の理論歴史学——

安富歩 はじめに

## 第1部 魂の遍歴

深尾葉子 魂の脱植民地化理論の新展開

別府春海 魂の化石化・植民地化・再植民地化・二重植民地化・脱植民地化

遠藤誉 魂の遍歴——中国“未完の革命”の狭間で——

柴田有三 ハラスメントの罨からの離脱過程の数量分析

深尾葉子 『ハウルの動く城』に見る魂の脱植民地化過程

## 第2部 中国社会の魂の脱植民地化

翟学伟 “关系” 研究的脱植民地化与理论重构

安富歩 マルサス人口論の呪縛——孫文の中国革命プログラムとの関係を中心に——

海部岳裕 梁漱溟の理

## 第3部 魂と呪縛の諸側面

葛城政明 経済学の呪縛

YASUTOMI Ayumu Decolonisation of the Soul: The Wisdom and Courage of Confucius and Gandhi

Ursula Weiss Murakami Haruki's Short Story as an Example for Colonization and Decolonization of the Soul——*The Kidney-Shaped Stone That Moves Every Day*——

等々力政彦 トゥバの古地図が意味するもの——遊牧民の世界認識——

## International Journal of Asian Studies

## 第5巻第2号 (2008年7月)

Annette HAMILTON Performing Identities: Two Chinese Rites in Southern Thailand

Sandra WILSON War, Soldier and Nation in 1950s Japan

## Asian monetary history revisited [4]

Keiichi NAKAJIMA The Establishment of Silver Currency in Kyoto

Translated by Jason Webb

## Review Articles

John E. WILLS, Jr. Interactive Early Modern Asia: Scholarship from a New Generation

## 第6巻第1号 (2009年1月)

Xiaorong HAN Spoiled Guests or Dedicated Patriots? The Chinese in North Vietnam, 1954-1978

Martha CHAIKLIN Ivory in Early Modern Ceylon: A Case Study in What Documents Don't Reveal

## Asian monetary history revisited [5]

Hidenori SUKAWA Currency in Early Choseon Korea: Issuance, Principles and Controversies  
Translated by Gaynor Sekimori

## Review Articles

Mio KISHIMOTO New Studies on Statecraft in Mid-and Late-Qing China: Qing Intellectuals and the Debates on Economic Policies

Yasushi OKI Foundations of Literacy in Premodern China: A New Study of Book Culture in the Qing and Republican Periods

## 第6巻2号 (2009年7月)

PETER KORNICKI AND NGUYỄN THỊ OANH The *Lesser Learning for Women* and Other Texts for Vietnamese Women: A Bibliographical and Comparative Study

DARIA BERG Cultural Discourse on Xue Susu, a Courtesan in Late Ming China

## State of the field

NIV HORESH The Pendulum Swings Again: Recent Debates on China's Prewar Economy

## Review article

ATSUSHI KOTERA *Great Wall? : Overcoming the Boundary Between Euro-American and Sino-Japanese Sinologies*

## 第7巻第1号 (2010年1月)

STEFAN HALIKOWSKI SMITH No Obvious Home: the Flight of the Portuguese "Tribe" from Makassar to Ayutthaya and Cambodia During the 1660s

YOSHIKO NAGANO The Philippine Currency System During the American Colonial Period: Transformation from the Gold Exchange Standard to the Dollar Exchange Standard

## State of the field

VIJAYA RAMASWAMY Perspectives on Women and Work in Pre-Colonial South India

## Review article

SELÇUK ESENBEL Pan-Asianism and Its Discontents

## 東洋文化研究所刊行物

(1995年以降全リスト) \*印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

## 東洋文化研究所紀要別冊

50. 岡本さえ『清代禁書の研究』 1996
- \* 51. 丸尾常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- \* 52. 末成道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
- \* 53. 蜂屋邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998
54. 小倉泰『インド世界の空間構造 ヒンドゥー寺院のシンボリズム』 1999
- \* 55. 平勢隆郎『左傳の史料批判的研究』 1999
56. 上村勝彦『インド古典詩論研究 アーナンダヴァルダナの dhvani 理論』 1999
57. 岡本さえ『近世中国の比較思想』 2000
- \* 58. 橋本秀美『義疏學衰亡史論』 2001
- \* 59. 大木康『馮夢龍『山歌』の研究』 2003
60. 加納啓良『現代インドネシア経済史論』 2003
61. ティムール・ダダバエフ『マハラの画像』 2006
- \* 62. 小寺敦『先秦家族関係史料の新研究』 2008
63. 大木康『冒襄と『影梅庵憶語』の研究』 2010

## 東洋文化研究所叢刊

- \* 15. 平勢隆郎『新編史記東周年表 中国古代紀年の研究序章』 1995
- \* 16. 蜂屋邦夫『中国の道教 その活動と道観の現状』 1995

- \* 17. 羽田正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏都市の肖像』 1996
- \* 18. 平勢隆郎『中国古代紀年の研究 天文と暦の検討から』 1996
- \* 19. Takashi Inoguchi, Miguel Basanez, Akihiko Tanaka and Timur Dadabaev, eds., *Values and Life Styles in Urban Asia: A Cross-Cultural Analysis and Sourcebook* 2005
- \* 20. 大田省一・井上直美(編)『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』 2005
21. 羽田正(編)『ユーラシアにおける文化の交流と転変』 2007
- \* 22. Masashi Haneda ed., *Asian Port Cities 1600-1800: Local and Foreign Cultural Interactions* 2009
- \* 23. Shingo Einoo ed., *Genesis and Development of Tantrism* 2009

## 東アジア部門美術研究分野報告

『中国繪畫総合圖録 續編』

- \* 第一巻 アメリカ・カナダ篇 1997
- \* 第二巻 東アジア・ヨーロッパ篇 1997
- \* 第三巻 日本篇 1999
- \* 第四巻 総索引 2000

## 蔵書目録

- \*『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版 1981, 1996
- \*『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 1996
- \*『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 索引 1996

## その他

- \*『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996
- \*『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1999
- \* *Conference Proceedings, Asia in the Twenty-First Century: Toward a New Framework of Asian Studies* 1996
- \*『アジアを知れば世界が見える』 2001
- 『アジア学の将来像』 2003
- 『アジア学の明日にむけて』 2008
- 『アジア古籍保全講演会記録集』 第1回～第3回 2008
- 『アジア古籍保全講演会記録集』 第4回 2009

東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター刊行物  
(1995年以降全リスト) \*印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの  
「刊行物」リストをご参照下さい。

●東洋学文献センター叢刊

- 第65輯 許舒博士所蔵 商業及び土地契約文書  
乾泰隆文書(1) 潮汕地区土地契約文書  
1995
- 別輯20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- 別輯21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(東  
アジア編) 1997
- 別輯22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯23 天津史文献目録 1998
- 別輯24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍  
目録 1999

●東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧  
蔵書目録 2002
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録  
2003
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所蔵伊藤義教文庫  
目録 2004
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所蔵清朝建築関係  
史料目録 2004
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所蔵上村勝彦文庫  
目録 2005
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所蔵古写真資料目  
録I 明治の営業写真家 山本讃七郎写真  
資料目録その1 2006
- 第7輯 東京大学東洋文化研究所蔵荒木茂文庫目  
録 2007
- 第8輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第  
3巻(1) 2007
- 第9輯 *Old Maps of Tuva 1 The detailed map  
of the nomadic grazing patterns of total  
area of the Tannu-Uriankhai* 2008
- 第10輯 *Old Maps of Tuva 2 Tannu-Utiangkhai  
Maps in Eighteenth Century China* 2009
- 第11輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第  
3巻(2) 2009
- 第12輯 東京大学東洋文化研究所蔵滝川勉文庫目録  
2010

●大型コレクション目録

*Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber  
Collection II, Institute of Oriental Culture, University  
of Tokyo, by Hans Daiber* [東京大学東洋文化研究  
所蔵アラビア語写本(ダイバーコレクションII)  
目録] 1996

